

医療創生大学
「学修行動調査 2022」調査報告書

教務委員会

目次

2022年度 学修行動調査報告	1
「学修行動調査2022」 薬学部調査結果に対する分析	17
「学修行動調査2022」 看護学部 調査報告に対する考察	34
「学修行動調査2022」 健康医療科学部	51
「学修行動調査2022」 健康医療科学部作業療法学科 調査結果に対する考察	65
「学修行動調査2022」 健康医療科学部理学療法学科 調査結果の考察	82
「学修行動調査2022」 心理学部 調査結果の考察	99
「学修行動調査2022」 国際看護学部 調査結果の考察	117

2022年度学修行動調査報告

教務委員会
委員長 菊池雄士

本学アセスメント・ポリシーに基づく学生調査の一環として、下記のように2022年度学修行動調査を実施した。なお、本学では「学生調査の実施に関する方針」の中で、学修行動調査を次のように位置づけている。

学修行動調査

学生の主体的な学修時間を実質的に増加させ、学びの成果につなげること、学びの成果を実質化することを目的とし、学生の学びの実態を把握する。なお新入生調査および上級生調査により、「生涯学び続け、主体的に考える力」を意味する主体的な学修態度が醸成されるよう、現状の分析と推移を検証し、学士課程教育の改善をはかるための基礎資料とする。

【調査の概要】

調査対象：

薬学部1・2・3・4・5・6年生、看護学部1・2・3・4年生、

健康医療科学部1・2・3・4年生、心理学部1・2・3年生、国際看護学部1・2年生

調査項目：1. 大学に入学する前や高校時代のことについて（1年生のみ）

2. 大学における学修状況について

回答方法：C-learningを利用

実施期間：2022年9月～11月

回答率：66.1%

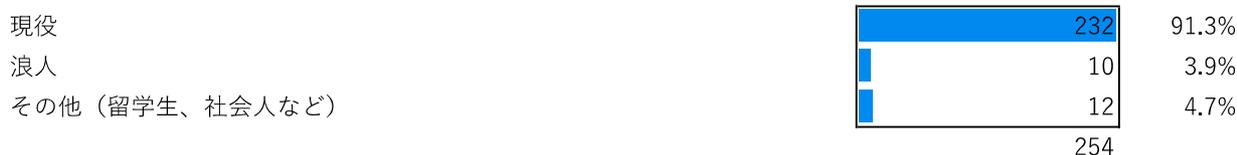
得られた結果を「学士課程教育の改善」に役立てていくには多面的・継続的な解析作業が必要である。教務委員会では、4つの調査項目のうち、「2. 大学における就学状況」（授業での学修経験、授業内外における学修行動、正課内外の活動に費やす時間、入学後の知識・能力の変化についての質問）に対する回答に注目し、調査結果を学部ごとに解析することにより、各学部生の特色や学部ごとの問題の所在を明らかにする試みを行った。その結果を以下に掲載する。考察は、学部独自の課題の抽出から学部間の比較に基づく他学部への提言に及んでいる。毎年、定期的に行われる本調査が本学の学生指導をより効果的なものにするために役に立つことを願うものである。

1. 大学に入学する前や高校時代のことについて (全学部：1年生のみ)

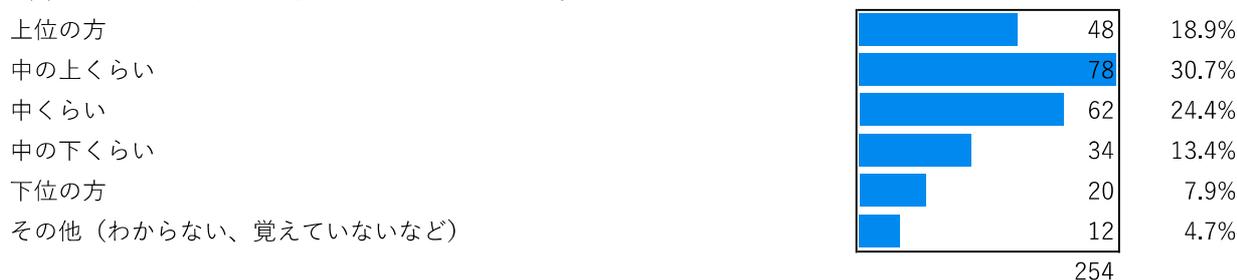
(1) あなたは志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。



(2) あなたは現役で本学に入学しましたか。



(3) あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。



A. 授業中、質問をする



B. 自分の意見を論理的に主張する



C. 問題の解決方法を模索し、それを他者に説明する



D. 意識的に論理的な文章を書く訓練をする



E. インターネット上の情報が事実かどうか確認する



F. 学問やスポーツなどで、困難なことにはあえて挑戦する



G. 問題に対処するために新しい解決策を模索する



H. 科学的（自然・人文など）研究の記事や論文を読む



I. 授業以外に興味のあることを更に深めるため自分で勉強する



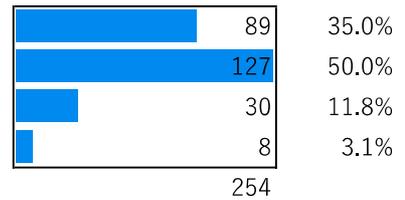
J. 自分の失敗から学ぶ

ひんぱんにした

ときどきした

あまりしなかった

まったくしなかった



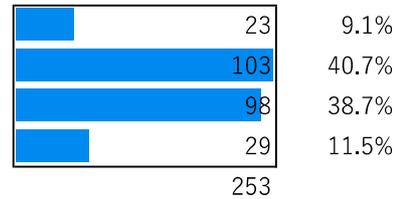
K. 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求める

ひんぱんにした

ときどきした

あまりしなかった

まったくしなかった



2. 大学における学修状況について（全学部）

（1）大学の授業の中で、次のような経験をする機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなど体験的に学ぶ機会



B. 授業を通して将来の仕事に直結する知識やスキルを学ぶ機会



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



D. 授業の一環としてボランティア活動に参加する機会



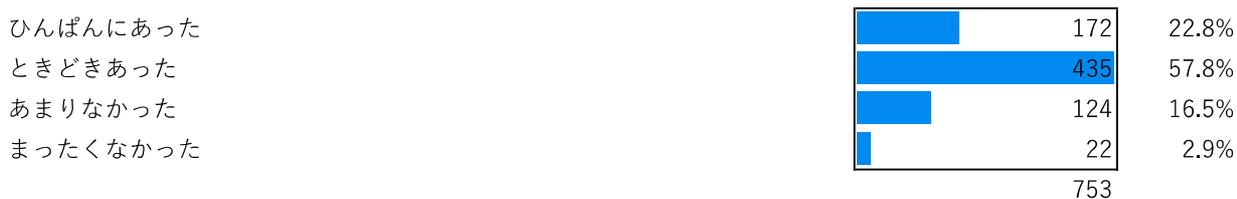
E. 検討課題について、文献や資料を自分で調べる機会



F. 小テストやレポートを課される機会



G. 添削やコメントの入ったレポートやリアクションペーパーが、返却される機会



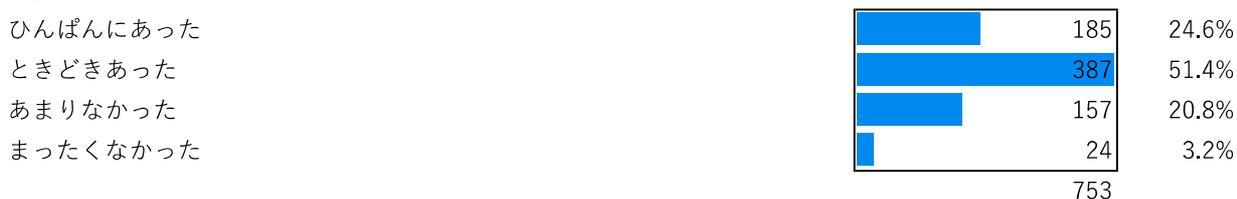
H. 自分の考えや研究について発表する機会



I. 学生同士で、授業中に議論をする機会



J. 自分たちで検討課題を提案し、授業中に議論する機会



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる機会



(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

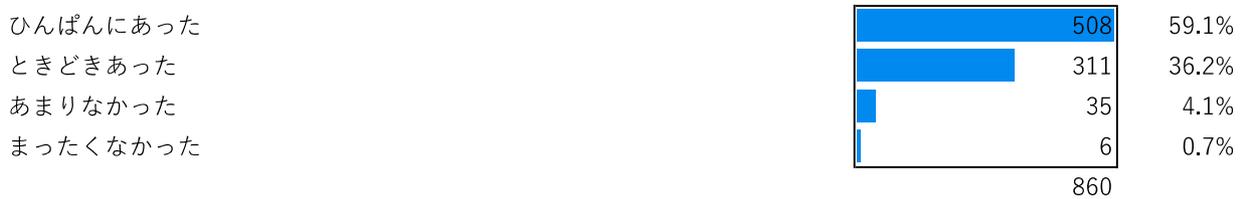
A. 授業準備や課題のために図書館の資料を利用した



B. 授業準備や課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネット（学内LANからの接続を含む）を使って授業資料や課題を受けたり、提出したりした



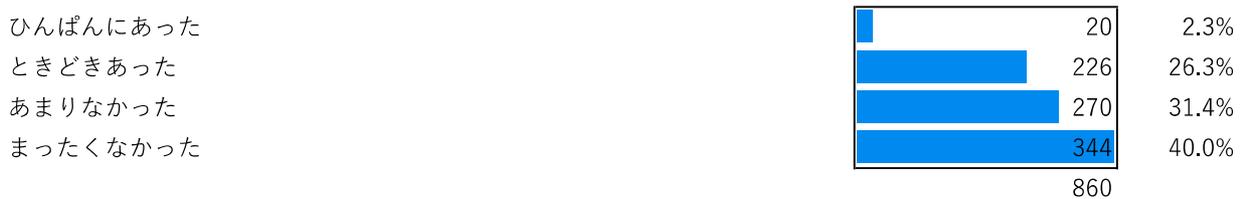
D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった、或いは提出できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした



F. 授業を欠席した



G. 授業に遅刻した



H. 授業をつまらなく感じた



I. 教員が主催（又は共催）する研究プロジェクトに参加した



J. 単位とは無関係の、教員・学生などが主催する自主的な勉強会に参加した

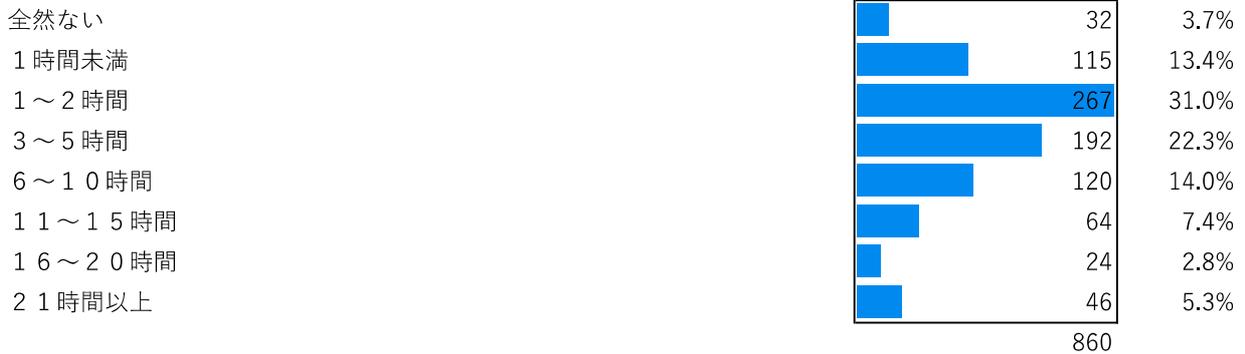


(3) あなたは、次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を使っていますか。

※1週間 = 24時間 × 7日 = 168時間

※1週間当たりの最大授業時間は、1日5コマ × 5日間 (月～金) = 37.5時間

A. 履修している授業の予習・復習・課題などをする



B. 履修している授業の予習・復習・課題以外の学修をする



C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



D. 部活動や同好会に参加する



E. アルバイトや仕事をする



F. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）



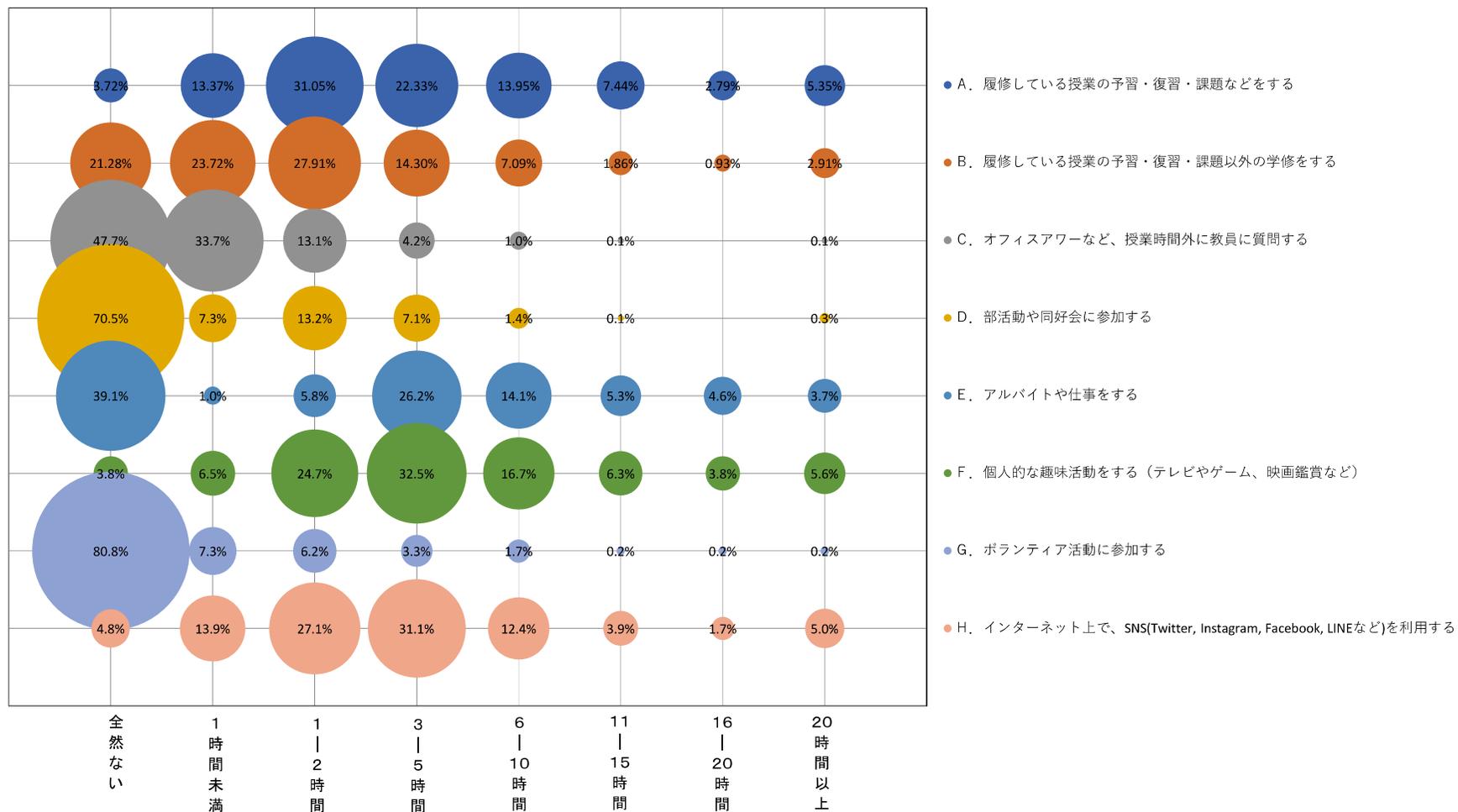
G. ボランティア活動に参加する



H. インターネット上で、SNS(Twitter, Instagram, Facebook, LINEなど)を利用する



2022（3）入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか



(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

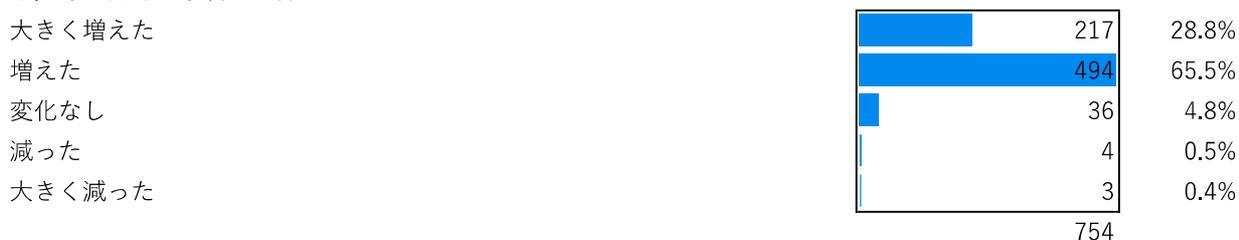
A. 一般的な教養



B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的（多面的・客観的）に考える能力



E. 異文化の人々に関する知識



F. リーダーシップの能力



G. 人間関係を構築する能力



H. 他の人と協力して物事を遂行する能力



I. 異文化の人々と協力する能力



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力



K. 国民が直面する問題を理解する能力



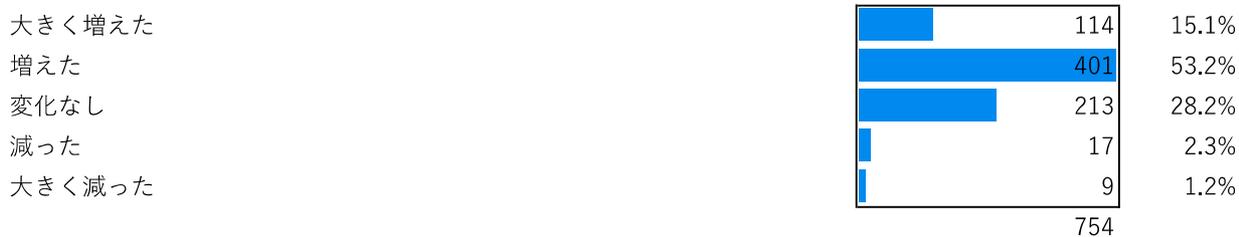
L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力



N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



P. 数理的な能力



Q. コンピュータの操作能力



R. 時間を有効に利用する能力



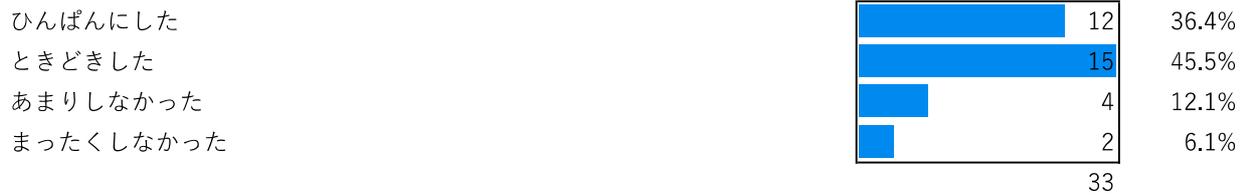
S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度



J. 自分の失敗から学ぶ



K. 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求める



2022 年度 医療創生大学「学修行動調査」 調査結果に対する分析（薬学部）

本学部における 2022 年度「学修行動調査」の調査結果を 2020 年度、2021 年度と比較した（別表）。今回の調査結果は、それらの点も含めて以下に考察する。

1. 大学に入学する前や高校時代のことについて（1年生のみ）

●本学を第一志望としていた学生は 76%と、2021 年度の 40%を大きく超えていた。しかし、この結果は割合として第一希望が増えているに過ぎないと考えられる。最近の本学部における入学定員充足率が年々低下傾向にあることを鑑みると、本学における第一希望以外の入学者の減少、つまり希望する大学への入学が可能なことや第二希望以下に本学が選ばれてないことが入学者の減少に影響を与えているのではないかと推測される。

●「あなたの高校での成績はどのあたりでしたか」という質問については、各高校の学力レベル（偏差値）が異なるので、レベルの高い高校で下位であっても、レベルの低い高校では上位である可能性がある。従って、無記名の上で高校の偏差値等と共に質問をするなど質問内容を変更しない限り、この質問項目はあまり参考にならないのではないかと考える。

●授業中の質問の有無や自分の意見の論理的主張、問題解決方法の模索及びその他者への説明など、A～K の全ての質問については、「あまりなかった」や「まったくなかった」と答えた学生が多くいることがわかる。これらの内容については、本学部ではイグナイト教育 1A をはじめとする各授業を通じ、低学年から学生に実際に体験、学修させることが必要である。

2. 大学における学習状況について

(1) あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

A～K の項目のうち、特記すべき内容を以下に記述する。

●「C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する」

「ひんばんにあった」と「ときどきあった」と回答した人は、2020、2021 年度と同様、全体の約 90%であった。例えば、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大状況や予防対策、ワクチン接種の意義などを講義するなど、実際に起きている社会問題を挙げながら、授業を展開している。

●「E. 学生自身が文献や資料を調べる」

「ひんばんにあった」と「ときどきあった」の回答の割合（約 94%）は、2020、2021 年度とほぼ同じであった。これは、学生自身が授業の課題、卒業研究では自身の研究に関係する論文を探す、情報収集する、インターネット（PC やタブレットなど）や図書館等を利用して文献や資料を調べる機会が増えたことなど、自らが「調べること」が定着してきていると推測される。

● 「J. 自分たちで検討課題を提案し、授業中に議論する機会」

「ひんばんにあった」、「ときどきあった」の回答は、2020、2021 年度よりも大きく増えた。2021 年度までは「授業で検討するテーマを学生が設定する」という質問項目であったため、今回は質問の仕方が変わったことが大きな理由であると思われる。本学部では、例えばイグナイト教育 1A において、その日の大きなテーマに対し、グループ活動の中で学生同士がその場で検討、議論すべき課題を出し合い、それに対して議論することが多くある。これらのことが質問の回答に反映されていると思われる。

● 「K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる」

「ひんばんにあった」と「ときどきあった」の肯定的回答が、2020、2021 年度よりも大きく増えた（かつ、年々増加している）。現在、C-ラーニングで実施している全学の授業改善アンケートでは、学生が回答、コメントした内容に対し、教員が直ぐに確認でき、学生へフィードバック・コメントすることとなっている。このことが定着したことで、自分の意見が取り入れられたと感じる学生が増えたのではないかと推測され、これら取組みの継続が必要である。

(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A～J の項目のうち、特記すべき内容を以下に記述する。

● 「B. 授業準備や課題のためにインターネット上の情報を利用した」、「C. インターネット（学内 LAN 空の接続を含む）を使って授業課題を受けたり、提出したりした」

「ひんばんにあった」「ときどきあった」の肯定的回答は、2020 年度と 2021 年度はほぼ同程度であった（約 97%）。その要因としては、①入学生へのタブレット購入の推奨、②教員のオンライン（Teams や C-ラーニングなど）を使った課題及び提出の機会の増加、③学生や教員の C-ラーニングなど学修支援ツールの使用頻度の増加、などが挙げられる。特に 2020 年度より、特に新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、C-ラーニングなどのシステムを活用した情報共有や課題提出などが定着化してきていることも考えられる。

● 「D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった、或いは提出できなかった」

「ひんばんにあった」と「ときどきあった」の回答が大きく増えた。例えば、1～2 年生の授業外学習では、未だ自分自身で勉強できない、学習習慣が身につけていない学生が多くみられる。そのため、学生がその課題に取り組むことで勉強の復習や講義外学習の習慣づけをするため、講義後に課題を課す教員が出す課題が増えている。それに加えて、実習のレポート課題の提出も必要となり、学生は課題を期限までに完成できない、提出できない、というケースが増えてきているのではないかと推測される。対策としては、科目ごとに学生が時間的に十分に取り組める内容やボリュームの課題を出す、各学年担当の教員間で調整をするなどの考慮が必要ではないかと思われる。

● 「F. 授業を欠席した」、「G. 授業に遅刻した」

「ひんぱんにあった」と「ときどきあった」の回答が2020、2021年度に比べて増えた。最近、新型コロナウイルス感染症の陽性者や濃厚接触者になったり、ワクチン接種の副反応が出たりして、欠席する学生が増えていること、或いは、咳や熱などの症状がある風邪などの体調不良でも新型コロナウイルス感染症と疑われる可能性があつて自ら欠席する学生がいることも、上記の回答に反映されている可能性がある。

● 「I. 教員が主催（又は共催）する研究プロジェクトに参加した」

「ひんぱんにあった」と「ときどきあった」の回答が、2020、2021年度に比べて大きく増えた。近年、薬学部では、学生が指導教員の下、自ら実験室で研究を行う卒業研究Aの学生が増えていること、研究室ごとに指導教員が配属学生と一緒にセミナーを開催し、そこで卒業研究A及び卒業研究Bの学生が研究経過報告や論文紹介をする機会が増えてきている。このようなことも本回答に反映されているのではないかとと思われる。

● 「J. 単位とは無関係の、教員・学生などが主催する自主的な勉強会に参加した」

「ひんぱんにあった」と「ときどきあった」の回答が、2020、2021年度に比べて大きく増えた。近年、薬学部では、学生の学力向上を目指して、学生の空き時間を利用した補習が実施されていること、放課後や土曜日には「クラムスクール」が開講されていることが本結果に反映されているのではないかと推測される。

(3) あなたは、次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

A～Hの項目のうち、特記すべき項目を以下に記述する。

● 「A. 履修している授業の予習・復習・課題をする」、「B. 履修している授業の予習・復習・課題以外の学修をする」

履修している授業に関する勉強時間は学生によって異なるが、その中で週当たり1～2時間が多い（全体の約20%）。これは、前述の通り、提出期限までに授業課題を完成あるいは提出できなかった学生が増えている理由にもつながるのではないかと推測される。一方、履修している授業に関係ない勉強時間は少ないことがわかる。この結果をふまえて、学部として、多くの学生が勉強時間を増やす方法を検討するとともに、講義以外の内容にも興味を持ち、積極的に学修できる環境づくりを検討したい。

● 「C. オフィスアワーなど、授業時間以外に教員に質問する」

「全くない」や「1時間未満」の学生が年々増加している（全体の約77%）。前述の通り、1年生のみのアンケート結果から、高校時は授業中に質問しなかった学生が多い。一方、学生によっては親しいチューターに対して、自ら質問や相談することも多く見受けられる。このことから、教員-学生間の親近感が大切であり、教員としては学生が教員に質問し易い雰囲気を作る、教員から学生にわからないことは遠慮せず質問するように促す必要があるのではないかと考えられる。

● 「D. 部活動や同好会に参加する」

「全然ない」が年々増えている。本学部では、どの学年も必修科目が非常に多く、時間割は詰まっていたりほぼ固定であること、多くの学生は各授業で出される課題やレポートが多く、それ以外にも予習・復習、試験勉強などもあり、授業時間以外にも勉強している。自由な時間に使える時間に対してやや不満、不満と回答している学生が多い。一方、学友会活動に参加している学生も3分の1程度いることから、今後感染状況を見ながらであるが、学友会活動に参加している学生を中心に、参加していない学生を誘うなどして、学生同士での活動を活発化していくことが大切であると考えられる。学部内ではソフトボール大会やバーベキューなど、学生、教員がともに行うイベントがあるが、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響で全くできていない状況である。今後、感染状況を踏まえてこれらのイベントを再開し、学部内で気の合う仲間や先輩や後輩との交流、そして学生と教員との交流を増やしていくことが大切であると思われる。

● 「E. アルバイトや仕事をする」

「アルバイトや仕事をしている」と回答した人が年々増えてきている。近年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は続いているが、現在は特に活動制限がないことから、授業の無い時間（平日の夕方、休日など）を利用してアルバイトや仕事をする学生が増えているのではないかと考えられる。さらに2022年度は、長引くコロナ禍に加えて、物価の高騰が追い打ちをかけており、学生やその家族の経済的な影響も受けているのも影響しているのではないかとと思われる。

(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A～Tの項目のうち、特記すべき事項を以下に記述する。

● 「A. 一般的な教養」「B. 分析力や問題解決能力」「C. 専門分野や学科の知識」「E. 異文化の人々に関する知識」「F. リーダーシップの能力」「G. 人間関係を構築する能力」「H. 他の人と協力して物事を遂行する能力」「I. 異文化の人々と協力する能力」「J. 地域社会が直面する問題を理解する能力」「K. 国民が直面する問題を理解する能力」「L. 文章表現の能力」「N. コミュニケーション能力」「O. プレゼンテーション能力」「P. 数理的な能力」「Q. コンピュータの操作能力」「R. 時間を有効に利用する能力」「S. グローバルな問題の理解」「T. 卒業後に就職するための準備の程度」

いずれの項目も、2020、2021年度と同様に、「大きく増えた」「増えた」が多い。イグナイト教育1Aをはじめ多くの科目でグループ活動、議論、発表の機会や、作文やレポート等の課題作成、様々な職種の方からの講話、スチューデントスキルやスタディスキルの習得などが多く行われている。専門科目（基礎・臨床科目ともに）でも実際に、社会問題などを取りあげながらそれについて考える機会を持つ授業も増えている。このように、薬学部の1～6年次のカリキュラムが、学生の様々な能力の増加につながっているものと推測される。現在、本学は、ウズベキスタンのタシケント医学アカデミーおよびタシケント薬科大学との国際交流協定を結んでおり、これを機に本学部生も国際

交流の機会を得るのも良いのではないかとと思われる。

「I. 異文化の人々と協力する能力」では「増えた」と答えた学生が大きく増えている。現在、薬学部では韓国国籍など外国籍の学生もいる。一方、「異文化」をグローバルな文化でなく、薬剤師以外の他医療従事者、薬学部以外の学部の学生など、自分の置かれている立場と異なる文化と捉えている学生もいる可能性がある。この点については、質問の内容を変える等の工夫が必要ではないかと思われる。

● 「M. 外国語の運用能力」

「減った」「大きく減った」の回答が全体の10%以上を占めている。学生は、高校生のときには、授業の中で英語リスニングや英会話などの機会が多くあったと思うが、大学では英語を使う機会が減っているのではないかとと思われる。薬学部としては、例えば、学生が英語で記載されている研究論文を読む機会を増やす、など学生が英語を運用できるような対策を行っていく必要がある。

1. 大学に入学する前や高校時代のことについて(1年生のみ)

(1) あなたは志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。

薬学部
2022年度 (%)

薬学部
2021年度 (%)

第1志望だった	25	75.8%
第1志望ではなかった	8	24.2%
合計	33	100.0%

40
55

(2) あなたは現役で本学に入学しましたか。

現役	30	90.9%
浪人	2	6.1%
その他(留学生、社会人など)	1	3.0%
合計	33	100.0%

92
4
4

(3) あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

上位の方	7	21.2%
中の上くらい	8	24.2%
中くらい	8	24.2%
中の下くらい	5	15.2%
下位の方	4	12.1%
その他(わからない、覚えていないなど)	1	3.0%
合計	33	100.0%

27
23
17
19
13
2

A. 授業中、質問をする

1. ひんぱんにあった	1	3.0%
2. ときどきあった	8	24.2%
3. あまりなかった	15	45.5%
4. まったくなかった	9	27.3%
合計	33	100.0%

2
25
23
50

B. 自分の意見を論理的に主張する

1. ひんぱんにあった	1	3.0%
2. ときどきあった	14	42.4%
3. あまりなかった	10	30.3%
4. まったくなかった	8	24.2%
合計	33	100.0%

10
25
40
25

C. 問題の解決方法を模索し、それを他者に説明する

1. ひんぱんにあった	2	6.1%
2. ときどきあった	13	39.4%
3. あまりなかった	12	36.4%
4. まったくなかった	6	18.2%
合計	33	100.0%

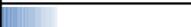
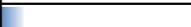
17
38
29
17

D. 意識的に論理的な文章を書く訓練をする

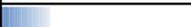
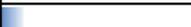
1. ひんぱんにあった	2	6.1%
2. ときどきあった	11	33.3%
3. あまりなかった	13	39.4%
4. まったくなかった	7	21.2%
合計	33	100.0%

6
17
33
44

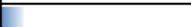
E. インターネット上の情報が事実かどうか確認する

1. ひんぱんにあった		8	24.2%	23
2. ときどきあった		15	45.5%	50
3. あまりなかった		6	18.2%	19
4. まったくなかった		4	12.1%	8
合計		33	100.0%	

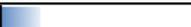
F. 学問やスポーツなどで、困難なことにはあえて挑戦する

1. ひんぱんにあった		5	15.2%	19
2. ときどきあった		18	54.5%	50
3. あまりなかった		6	18.2%	23
4. まったくなかった		4	12.1%	8
合計		33	100.0%	

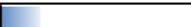
G. 問題に対処するために新しい解決策を模索する

1. ひんぱんにあった		3	9.1%	10
2. ときどきあった		20	60.6%	54
3. あまりなかった		8	24.2%	29
4. まったくなかった		2	6.1%	6
合計		33	100.0%	

H. 科学的(自然・人文など)研究の記事や論文を読む

1. ひんぱんにあった		4	12.1%	6
2. ときどきあった		14	42.4%	27
3. あまりなかった		12	36.4%	42
4. まったくなかった		3	9.1%	25
合計		33	100.0%	

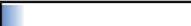
I. 授業以外に興味あることを更に深めるため自分で勉強する

1. ひんぱんにあった		4	12.1%	19
2. ときどきあった		14	42.4%	40
3. あまりなかった		12	36.4%	19
4. まったくなかった		3	9.1%	23
合計		33	100.0%	

J. 自分の失敗から学ぶ

1. ひんぱんにあった		12	36.4%	42
2. ときどきあった		15	45.5%	48
3. あまりなかった		4	12.1%	10
4. まったくなかった		2	6.1%	0
合計		33	100.0%	

K. 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求める

1. ひんぱんにあった		2	6.1%	8
2. ときどきあった		15	45.5%	35
3. あまりなかった		11	33.3%	35
4. まったくなかった		5	15.2%	21
合計		33	100.0%	

(1)あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ

	薬学部 2022年度 (%)		薬学部 2021年度 (%)		薬学部 2020年度 (%)	
	1. ひんぱんにあった	92	45.8%	41.3	42.9	
2. ときどきあった	89	44.3%	50.0	48.6		
3. あまりなかった	14	7.0%	6.4	7.6		
4. まったくなかった	6	3.0%	2.4	1.0		
合計	201	100.0%				

B. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ

1. ひんぱんにあった	89	44.3%	40.5	36.2
2. ときどきあった	100	49.8%	54.8	57.1
3. あまりなかった	10	5.0%	4.0	5.7
4. まったくなかった	2	1.0%	0.8	1.0
合計	201	100.0%		

C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する

1. ひんぱんにあった	55	27.4%	35.7	21.0
2. ときどきあった	127	63.2%	56.4	63.8
3. あまりなかった	17	8.5%	6.4	15.2
4. まったくなかった	2	1.0%	1.6	0.0
合計	201	100.0%		

D. 授業の一環でボランティア活動をする

1. ひんぱんにあった	5	2.5%	0.8	0.0
2. ときどきあった	29	14.4%	10.3	6.7
3. あまりなかった	62	30.8%	31.0	20.0
4. まったくなかった	105	52.2%	57.9	73.3
合計	201	100.0%		

E. 学生自身が文献や資料を調べる

1. ひんぱんにあった	90	44.8%	42.1	46.7
2. ときどきあった	99	49.3%	51.6	43.8
3. あまりなかった	7	3.5%	3.2	9.5
4. まったくなかった	5	2.5%	3.2	0.0
合計	201	100.0%		

F. 定期的に小テストやレポートが課される

1. ひんぱんにあった	135	67.2%	62.7	64.8
2. ときどきあった	61	30.3%	34.1	33.3
3. あまりなかった	4	2.0%	1.6	1.9
4. まったくなかった	1	0.5%	1.6	0.0
合計	201	100.0%		

G. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する

1. ひんぱんにあった	68	33.8%	33.3	21.0
2. ときどきあった	105	52.2%	45.2	61.0
3. あまりなかった	22	10.9%	14.3	16.2
4. まったくなかった	6	3.0%	7.1	1.9
合計	201	100.0%		

H. 学生が自分の考えや研究を発表する

1. ひんぱんにあった	65	32.3%	45.2	29.8
2. ときどきあった	118	58.7%	48.4	57.7
3. あまりなかった	16	8.0%	4.0	11.5
4. まったくなかった	2	1.0%	2.4	1.0
合計	201	100.0%		

I. 授業中に学生同士が議論をする

1. ひんばんにあった		82	40.8%
2. ときどきあった		106	52.7%
3. あまりなかった		10	5.0%
4. まったくなかった		3	1.5%
合計		201	100.0%

51.6	41.0
42.9	55.2
4.0	2.9
1.6	1.0

J. 自分たちで検討課題を提案し、授業中に議論する機会

1. ひんばんにあった		70	34.8%
2. ときどきあった		100	49.8%
3. あまりなかった		25	12.4%
4. まったくなかった		6	3.0%
合計		201	100.0%

5.6	6.7
38.1	35.2
42.1	49.5
14.3	8.6

K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる

1. ひんばんにあった		89	44.3%
2. ときどきあった		100	49.8%
3. あまりなかった		10	5.0%
4. まったくなかった		2	1.0%
合計		201	100.0%

12.7	6.7
50.8	48.6
30.2	34.3
6.4	10.5

(2)大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業準備や課題のために図書館の資料を利用した

	薬学部 2022年度 (%)		薬学部 2021年度 (%)		薬学部 2020年度 (%)	
	1. ひんぱんにあった	33	16.4%	16.7	15.2	
2. ときどきあった	105	52.2%	57.9	43.8		
3. あまりなかった	49	24.4%	4.8	29.5		
4. まったくなかった	14	7.0%	20.6	11.4		
合計	201	100.0%				

B. 授業準備や課題のためにインターネット上の情報を利用した

1. ひんぱんにあった	134	66.7%	60.3	64.8
2. ときどきあった	60	29.9%	35.7	31.4
3. あまりなかった	4	2.0%	1.6	2.9
4. まったくなかった	3	1.5%	2.4	1.0
合計	201	100.0%		

C. インターネット(学内LANからの接続を含む)を使って授業課題を受けたり、提出したりした

1. ひんぱんにあった	135	67.2%	63.5	69.5
2. ときどきあった	59	29.4%	31.8	28.6
3. あまりなかった	6	3.0%	1.6	1.9
4. まったくなかった	1	0.5%	3.2	0.0
合計	201	100.0%		

D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった、或いは提出できなかった

1. ひんぱんにあった	8	4.0%	0.8	1.9
2. ときどきあった	43	21.4%	11.1	16.4
3. あまりなかった	62	30.8%	62.7	30.8
4. まったくなかった	88	43.8%	25.4	51.0
合計	201	100.0%		

E. 授業時間以外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした

1. ひんぱんにあった	72	35.8%	43.7	30.8
2. ときどきあった	92	45.8%	42.1	51.9
3. あまりなかった	25	12.4%	5.6	10.6
4. まったくなかった	12	6.0%	8.7	6.7
合計	201	100.0%		

F. 授業を欠席した

1. ひんぱんにあった	5	2.5%	0.8	3.8
2. ときどきあった	58	28.9%	27.8	16.2
3. あまりなかった	59	29.4%	30.2	39.1
4. まったくなかった	79	39.3%	41.3	41.0
合計	201	100.0%		

G. 授業に遅刻した

1. ひんぱんにあった	6	3.0%	3.2	1.9
2. ときどきあった	54	26.9%	18.3	20.0
3. あまりなかった	53	26.4%	42.1	30.5
4. まったくなかった	88	43.8%	36.5	47.6
合計	201	100.0%		

H. 授業をつまらなく感じた

1. ひんぱんにあった	20	10.0%	10.3	20.0
2. ときどきあった	109	54.2%	47.6	51.4
3. あまりなかった	61	30.3%	4.0	27.6
4. まったくなかった	11	5.5%	38.1	1.0
合計	201	100.0%		

I. 教員が主催(又は共催)する研究プロジェクトに参加した

1. ひんぱんにあった		5	2.49%
2. ときどきあった		24	11.94%
3. あまりなかった		55	27.36%
4. まったくなかった		117	58.21%
合計		201	100.00%

0.0	1.0
7.1	7.7
70.6	21.2
22.2	70.2

J. 単位とは無関係の、教員・学生などが主催する自主的な勉強会に参加した

1. ひんぱんにあった		12	6.0%
2. ときどきあった		39	19.4%
3. あまりなかった		46	22.9%
4. まったくなかった		104	51.7%
合計		201	100.0%

6.4	2.9
10.3	13.3
55.6	24.8
27.8	59.1

(3)あなたは、次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を使っていますか。

A. 履修している授業の予習・復習・課題などをする

薬学部
2022年度

薬学部
2021年度

薬学部
2020年度

1. 全然ない	3	1.5%
2. 1時間未満	17	8.5%
3. 1～2時間	42	20.9%
4. 3～5時間	32	15.9%
5. 6～10時間	37	18.4%
6. 11～15時間	33	16.4%
7. 16～20時間	9	4.5%
8. 21時間以上	28	13.9%
合計	201	100.0%

B. 履修している授業の予習・復習・課題以外の学修をする

1. 全然ない	46	22.9%
2. 1時間未満	38	18.9%
3. 1～2時間	44	21.9%
4. 3～5時間	24	11.9%
5. 6～10時間	22	10.9%
6. 11～15時間	4	2.0%
7. 16～20時間	6	3.0%
8. 21時間以上	17	8.5%
合計	201	100.0%

C. オフィスアワーなど、授業時間以外に教員に質問する

1. 全然ない	75	37.3%
2. 1時間未満	79	39.3%
3. 1～2時間	33	16.4%
4. 3～5時間	10	5.0%
5. 6～10時間	2	1.0%
6. 11～15時間	1	0.5%
7. 16～20時間	0	0.0%
8. 21時間以上	1	0.5%
合計	201	100.0%

31.8	30.5
44.4	38.1
17.5	22.9
4.0	4.8
1.6	3.8
0.0	0.0
0.0	0.0
0.8	0.0

D. 部活動や同好会に参加する

1. 全然ない	164	81.6%
2. 1時間未満	15	7.5%
3. 1～2時間	11	5.5%
4. 3～5時間	8	4.0%
5. 6～10時間	2	1.0%
6. 11～15時間	0	0.0%
7. 16～20時間	0	0.0%
8. 21時間以上	1	0.5%
合計	201	100.0%

80.2	76.0
11.9	5.8
5.6	8.7
1.6	6.7
0.8	1.0
0.0	1.0
0.0	0.0
0.0	1.0

E. アルバイトや仕事をする

1. 全然ない	125	62.2%
2. 1時間未満	3	1.5%
3. 1～2時間	11	5.5%
4. 3～5時間	29	14.4%
5. 6～10時間	20	10.0%
6. 11～15時間	7	3.5%
7. 16～20時間	3	1.5%
8. 21時間以上	3	1.5%
合計	201	100.0%

65.1	68.6
1.6	3.8
3.2	6.7
11.1	7.6
8.7	4.8
7.9	3.8
1.6	1.9
0.8	2.9

F. 個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)

1. 全然ない	8	4.0%
---------	---	------

4.0	3.8
-----	-----

2. 1時間未満	9	4.5%
3. 1～2時間	44	21.9%
4. 3～5時間	54	26.9%
5. 6～10時間	38	18.9%
6. 11～15時間	15	7.5%
7. 16～20時間	12	6.0%
8. 21時間以上	21	10.4%
合計	201	100.0%

4.0	10.5
23.0	12.4
23.8	30.5
22.2	14.3
5.6	18.1
7.9	3.8
9.5	6.7

G. ボランティア活動に参加する

1. 全然ない	189	94.0%
2. 1時間未満	3	1.5%
3. 1～2時間	3	1.5%
4. 3～5時間	3	1.5%
5. 6～10時間	0	0.0%
6. 11～15時間	1	0.5%
7. 16～20時間	1	0.5%
8. 21時間以上	1	0.5%
合計	201	100.0%

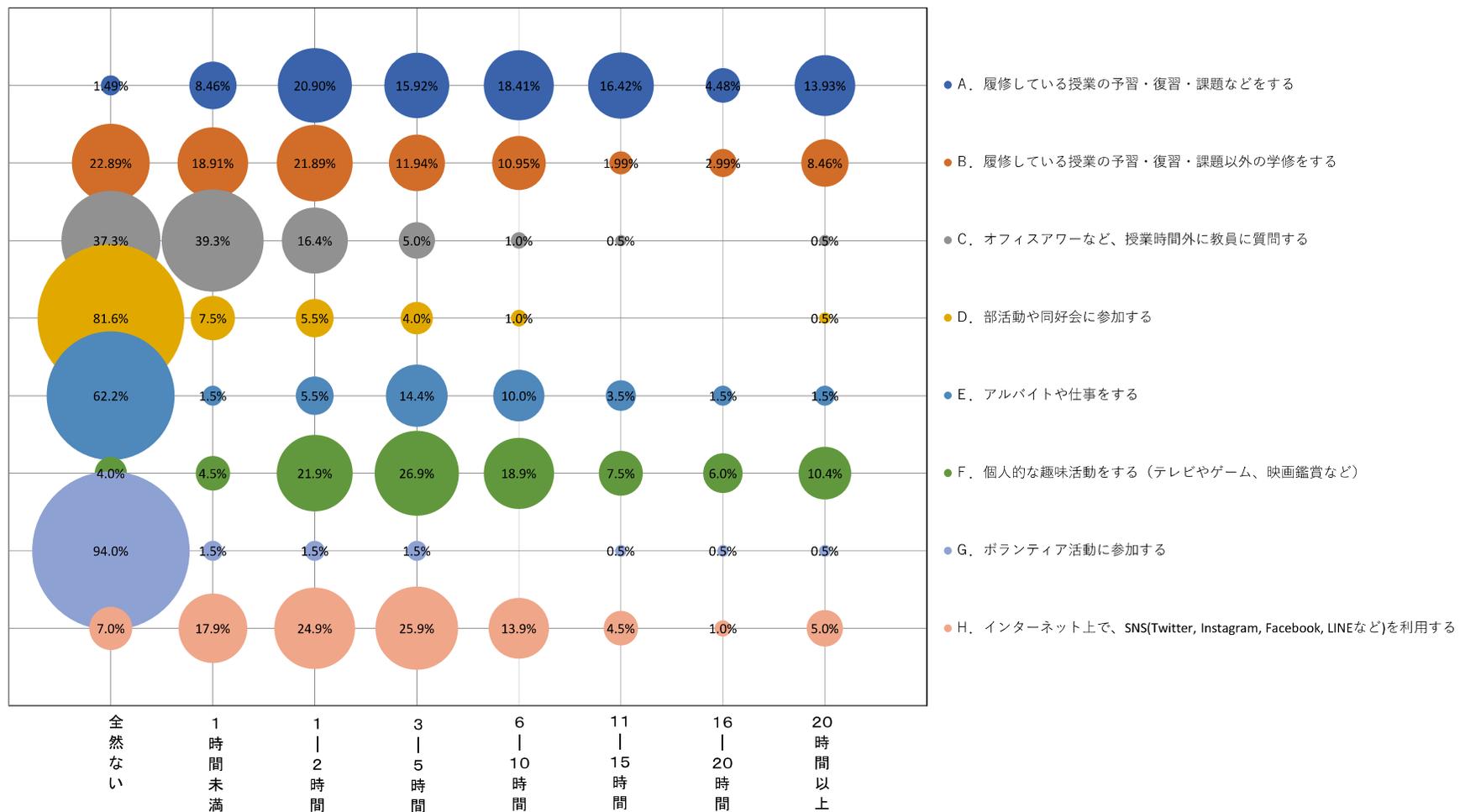
97.6	92.4
1.6	4.8
0.0	1.0
0.0	1.0
0.8	0.0
0.0	0.0
0.0	0.0
0.0	1.0

H. インターネット上で、SNS(Twitter、Instagram、Facebook、LINEなど)を利用する

1. 全然ない	14	7.0%
2. 1時間未満	36	17.9%
3. 1～2時間	50	24.9%
4. 3～5時間	52	25.9%
5. 6～10時間	28	13.9%
6. 11～15時間	9	4.5%
7. 16～20時間	2	1.0%
8. 20時間以上	10	5.0%
合計	201	100.0%

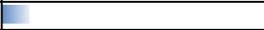
4.8	1.0
23.8	29.5
32.5	30.5
15.9	20.0
11.9	6.7
2.4	2.9
3.2	4.8
5.6	4.8

2022（3）入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか

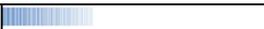
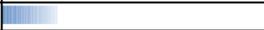


(4)入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

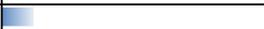
A. 一般的な教養

	薬学部 2022年度		薬学部 2021年度	薬学部 2020年度
	1. 大きく増えた		51 25.4%	28.6
2. 増えた		127 63.2%	54.8	61.9
3. 変化なし		20 10.0%	15.1	20.0
4. 減った		1 0.5%	0.8	1.9
5. 大きく減った		2 1.0%	0.8	1.0
合計		201 100.0%		

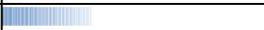
B. 分析力や問題解決能力

1. 大きく増えた		39 19.4%	21.43	15.24
2. 増えた		136 67.7%	65.87	65.71
3. 変化なし		19 9.5%	11.90	18.10
4. 減った		4 2.0%	0.00	0.00
5. 大きく減った		3 1.5%	0.79	0.95
合計		201 100.0%		

C. 専門分野や学科の知識

1. 大きく増えた		86 42.8%	50.8	43.8
2. 増えた		107 53.2%	46.8	49.5
3. 変化なし		4 2.0%	2.4	6.7
4. 減った		2 1.0%	0.0	0.0
5. 大きく減った		2 1.0%	0.0	0.0
合計		201 100.0%		

D. 批判的(多面的・客観的)に考える能力

1. 大きく増えた		29 14.4%	11.9	12.4
2. 増えた		131 65.2%	58.7	51.4
3. 変化なし		36 17.9%	29.4	34.3
4. 減った		2 1.0%	0.0	1.0
5. 大きく減った		3 1.5%	0.0	1.0
合計		201 100.0%		

E. 異文化の人々に関する知識

1. 大きく増えた		19 9.45%	8.7	6.7
2. 増えた		83 41.29%	39.7	31.4
3. 変化なし		92 45.77%	50.8	61.0
4. 減った		3 1.49%	0.0	1.0
5. 大きく減った		4 1.99%	0.8	0.0
合計		201 100.00%		

F. リーダーシップの能力

1. 大きく増えた		19 9.5%	7.1	1.0
2. 増えた		65 32.3%	36.5	38.1
3. 変化なし		110 54.7%	54.0	56.2
4. 減った		4 2.0%	2.4	3.8
5. 大きく減った		3 1.5%	1.0	1.0
合計		201 100.0%		

G. 人間関係を構築する能力

1. 大きく増えた		32 15.9%	11.1	7.7
2. 増えた		92 45.8%	54.0	49.0
3. 変化なし		65 32.3%	32.5	36.5
4. 減った		7 3.5%	2.4	5.8
5. 大きく減った		5 2.5%	0.0	1.0
合計		201 100.0%		

H. 他の人と協力して物事を遂行する能力

1. 大きく増えた		29	14.4%
2. 増えた		128	63.7%
3. 変化なし		39	19.4%
4. 減った		2	1.0%
5. 大きく減った		3	1.5%
合計		201	100.0%

16.7	10.5
62.7	52.4
20.6	34.3
0.0	1.9
0.0	1.0

I. 異文化の人々と協力する能力

1. 大きく増えた		13	6.5%
2. 増えた		62	30.8%
3. 変化なし		114	56.7%
4. 減った		7	3.5%
5. 大きく減った		5	2.5%
合計		201	100.0%

6.4	2.9
24.6	17.1
68.3	78.1
0.0	1.9
0.8	0.0

J. 地域社会が直面する問題を理解する能力

1. 大きく増えた		13	6.5%
2. 増えた		62	30.8%
3. 変化なし		114	56.7%
4. 減った		7	3.5%
5. 大きく減った		5	2.5%
合計		201	100.0%

7.9	4.8
42.9	32.4
47.6	58.1
1.6	4.8
0.0	0.0

K. 国民が直面する問題を理解する能力

1. 大きく増えた		16	8.0%
2. 増えた		90	44.8%
3. 変化なし		87	43.3%
4. 減った		5	2.5%
5. 大きく減った		3	1.5%
合計		201	100.0%

8.7	1.9
44.4	37.5
46.0	56.7
0.8	2.9
0.0	1.0

L. 文章表現の能力

1. 大きく増えた		19	9.5%
2. 増えた		105	52.2%
3. 変化なし		67	33.3%
4. 減った		4	2.0%
5. 大きく減った		6	3.0%
合計		201	100.0%

11.1	5.7
52.4	43.8
31.8	41.9
3.2	5.7
1.6	2.9

M. 外国語の運用能力

1. 大きく増えた		7	3.5%
2. 増えた		50	24.9%
3. 変化なし		118	58.7%
4. 減った		19	9.5%
5. 大きく減った		7	3.5%
合計		201	100.0%

4.0	3.8
23.8	17.1
60.3	63.8
10.3	9.5
1.6	5.7

N. コミュニケーションの能力

1. 大きく増えた		23	11.4%
2. 増えた		108	53.7%
3. 変化なし		60	29.9%
4. 減った		6	3.0%
5. 大きく減った		4	2.0%
合計		201	100.0%

13.5	10.5
57.9	47.6
26.2	37.1
1.6	2.9
0.8	1.9

O. プレゼンテーションの能力

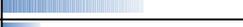
1. 大きく増えた		24	12.0%
-----------	--	----	-------

16.7	11.5
------	------

2. 増えた		118	59.0%
3. 変化なし		53	26.5%
4. 減った		3	1.5%
5. 大きく減った		2	1.0%
合計		200	100.0%

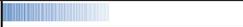
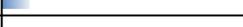
57.1	48.1
24.6	38.5
1.6	0.0
0.0	1.9

P. 数理的な能力

1. 大きく増えた		24	12.0%
2. 増えた		110	55.0%
3. 変化なし		55	27.5%
4. 減った		8	4.0%
5. 大きく減った		3	1.5%
合計		200	100.0%

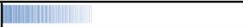
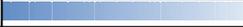
12.7	8.6
53.2	41.9
27.8	44.8
4.8	2.9
1.6	1.9

Q. コンピュータの操作能力

1. 大きく増えた		39	19.5%
2. 増えた		113	56.5%
3. 変化なし		45	22.5%
4. 減った		2	1.0%
5. 大きく減った		1	0.5%
合計		200	100.0%

23.0	16.2
51.6	45.7
25.4	36.2
0.0	1.0
0.0	1.0

R. 時間を有効に利用する能力

1. 大きく増えた		31	15.4%
2. 増えた		111	55.2%
3. 変化なし		52	25.9%
4. 減った		5	2.5%
5. 大きく減った		2	1.0%
合計		201	100.0%

15.9	11.4
57.1	45.7
23.0	36.2
3.2	5.7
0.8	1.0

S. グローバルな問題の理解

1. 大きく増えた		11	5.5%
2. 増えた		73	36.3%
3. 変化なし		110	54.7%
4. 減った		3	1.5%
5. 大きく減った		4	2.0%
合計		201	100.0%

5.6	1.9
30.2	29.1
63.5	67.0
0.8	1.0
0.0	1.0

T. 卒業後に就職するための準備の程度

1. 大きく増えた		18	9.0%
2. 増えた		84	41.8%
3. 変化なし		95	47.3%
4. 減った		3	1.5%
5. 大きく減った		1	0.5%
合計		201	100.0%

9.5	6.8
34.1	31.1
55.6	57.3
0.8	5.8
0.0	1.0

医療創生大学「2022年度学修行動調査」報告に対する考察（看護学部）

看護学部教務委員会

今年度から対象学年が1・3・4年から1～4年の全学年が対象となった。前年度までのものと単純に比較はできないが、経年的な傾向と他学部との比較を通して考察する。

1. 回答状況

各学年の回答者数と回答率(%)は、1年生46名/52名(88.5%)、2年生59名/81名(72.8%)、3年生54名/83名(65.1%)、4年生41名/80名(51.3%)、計200名/296名(67.6%)となっており、学年が進むにつれ回答率は下がるものの、各学年50%以上の回答率となっている。前年度(59.3%)より回答率は上がっている。

2. 大学に入学する前や高校時代のことについて（1年生のみ）

- ・「本学が第一志望でしたか」について、大学全体67.2%と比較すると看護学部は56.5%と低くなっている。さらに2021年度結果と比較すると、看護学部では第一志望だった割合は60%から56.5%と下がっている。不本意ながら入学した者であったとしても、看護への興味関心を高め、本学で学ぶ意義を見出せるような関わりが求められる。
- ・「H. 科学的（自然・人文など）研究の記事や論文を読む」は、他学部と比較して看護学部では「あまりしなかった」「まったくしなかった」とする者の割合が高かった。医療福祉系の学部で構成される本学の中で、看護学部は科学的探究や思考を苦手とする学生が相対的に多いことが推察される。自ら問いを立てる探求型学習や他者からの問いを解決する問題解決型学習を増やしていくことが必要と考える。

3. 大学における学習状況について

(1) あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会について

- ・「G. 添削やコメントの入ったレポートやリアクションペーパーが返却される機会」について、「あまりなかった」「まったくなかった」と回答した割合が他学部よりも高い。前年度も同様の結果であったが、看護学実習の特徴として、臨地実習の多くがいわゆる「張り付き実習」で教員が実習施設において直接口頭でコメントを行っており、このことが添削・コメントの結果に影響していると考えられる。しかし、口頭ではその場で十分に学生が理解できない場合もあり、文字で残る形でのフィードバックをしていくことを教員も心掛けていく必要がある。
- ・「I. 学生同士で授業中に議論する機会」について、「ひんぱんにあった」とする割合が他学部と比較して高い。コミュニケーション力は看護において重要な力であり、多くの看護専門科目でもグループディスカッションを取り入れている。この看護の特徴を反映した結果と言える。

(2) 授業や授業以外の学習について

- ・「D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった、或いは提出できなかった。」について、「まったくなかった」とする割合が昨年よりも 30 ポイント近く増えており、よい傾向と言える。また、「ひんぱんにあった」「ときどきあった」とする割合が他学部よりも低い。同様に「F. 授業を欠席した」「G. 授業に遅刻した」について、「ひんぱんにあった」「ときどきあった」とする割合は昨年度より減少している。これらは、看護の学生が規律を守るなど真面目な性格の学生が多いことの表れともいえる。
- ・「H. 授業をつまらなく感じた」について、「ひんぱんにあった」「ときどきあった」とする割合が他学部よりも高く、看護学部として大きな問題である。FSDS 委員会と連携し、すべての科目において授業の振り返り・改善を強化していく必要がある。

(3) 1 週あたりの各活動に費やす時間

- ・予習復習時間は「1～2 時間」と回答した者が最も多く、約 2 割の学生が「1 時間未満」「全然ない」と回答している。同様に、授業以外の学習についても「1～2 時間」「1 時間未満」「全然ない」8 割近くを占めており、学習習慣が身につけていないことが伺える。
- ・「C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する」について、「全然ない」と回答したものが 50% で経年的にこの割合は増加傾向にある。看護学部は新型コロナウイルス感染症の影響で大教室がある 2 号館や 3 号館で授業をすることが多くなっているが、看護学部教員の研究室がある 6 号館まで足を運ぶことを億劫に感じている学生も少なくない。しかしながら、もっと気軽に教員に相談できるようオフィスアワーの拡大を各教員に呼び掛けていく必要があると言えよう。
- ・「D. 部活動や同好会」に全く参加していない者の割合が 70.5% と昨年度よりも増えている。新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、看護学部では 3 年次から長期の実習を行うため 3 年次以降部活動等を控える学生が増えることが影響していると考えられる。
- ・「E. アルバイトや仕事」を全くしていない学生の割合が他学部に比べ低い。つまり、看護学部ではアルバイトをしている学生が比較的多いと言え、前述の学習時間の確保にも影響している可能性がある。
- ・「G. ボランティア」を全くしていない学生の割合が他学部に比べ低い。新型コロナウイルス感染症の影響でボランティア機会が減少している中で、看護学部学生はボランティアには参加しているほうである。しかしながら、幅広い知識の獲得や感性を磨く上でもこれらの活動を更に促す工夫が必要と思われる。

(4) 入学時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか

- ・「F. リーダーシップ能力」、「G. 人間関係を構築する能力」「H. 他の人と協力して物事を遂行する能力」について「大きく増えた」「増えた」とする者の割合が他学部よりも高い。これらは看護において重要な力であり、多くの看護専門科目でもこれらの能力形成を意識してグループディスカッション、チーム活動を行っている。この看護の特徴を反映した結果と言える。
- ・「P. 数理的な能力」について「増えた」とする者が他学部より少なく「変化なし」が多い。データから推論したり、分析的思考を涵養する科目・授業を強化していく必要がある。

4. まとめ

看護学部の学生は、遅刻・欠席が少なく提出期限を守るなど真面目に取り組む良さがあるが、学習に対して受動的傾向があることが推察された。また、学生の各種能力について、対人関係構築に必要なコミュニケーション力や協調性といった力が伸びているが、数理的思考や分析的思考力に課題があることが示唆された。

一方、教員側の課題として、教員—学生間での関わりが少ない、興味関心を高める授業改善が求められているといった課題が浮かび上がった。まずは教員—学生間での対話や双方向型学習機会を増やすことと、論理的思考を高めるための教授方法の工夫、カリキュラムづくりなどを学部全体で取り組んでいく必要がある。

1. 大学に入学する前や高校時代のことについて (看護学部：1年生のみ)

(1) あなたは志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。



(2) あなたは現役で本学に入学しましたか。



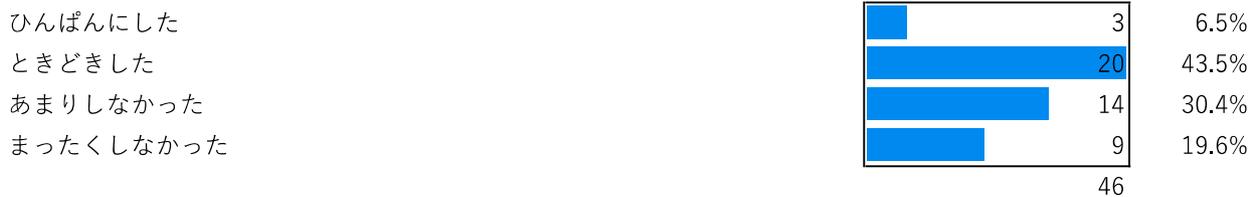
(3) あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。



A. 授業中、質問をする



B. 自分の意見を論理的に主張する



C. 問題の解決方法を模索し、それを他者に説明する



D. 意識的に論理的な文章を書く訓練をする



E. インターネット上の情報が事実かどうか確認する



F. 学問やスポーツなどで、困難なことにはあえて挑戦する



G. 問題に対処するために新しい解決策を模索する



H. 科学的（自然・人文など）研究の記事や論文を読む



I. 授業以外に興味のあることを更に深めるため自分で勉強する



J. 自分の失敗から学ぶ



K. 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求める



2. 大学における学修状況について（看護学部）

(1) 大学の授業の中で、次のような経験をする機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなど体験的に学ぶ機会



B. 授業を通して将来の仕事に直結する知識やスキルを学ぶ機会



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する機会



D. 授業の一環としてボランティア活動に参加する機会



E. 検討課題について、文献や資料を自分で調べる機会



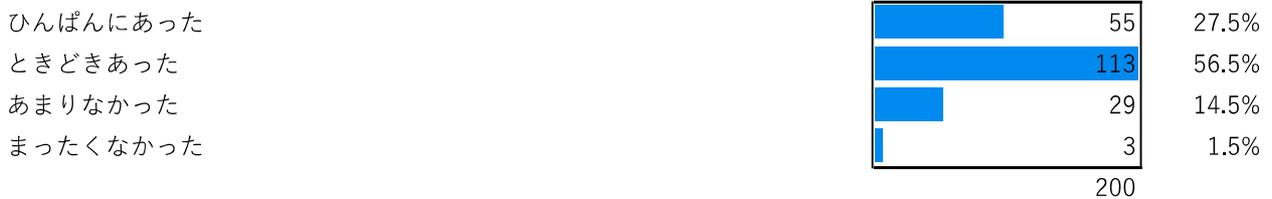
F. 小テストやレポートを課される機会



G. 添削やコメントの入ったレポートやリアクションペーパーが、返却される機会



H. 自分の考えや研究について発表する機会



I. 学生同士で、授業中に議論をする機会



J. 自分たちで検討課題を提案し、授業中に議論する機会



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる機会



(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業準備や課題のために図書館の資料を利用した



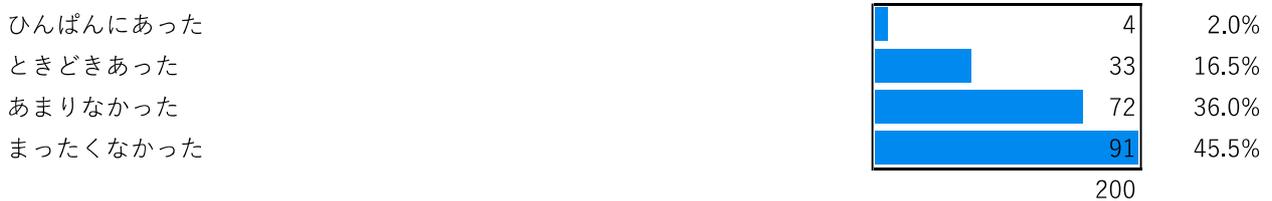
B. 授業準備や課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネット（学内LANからの接続を含む）を使って授業資料や課題を受けたり、提出したりした



D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった、或いは提出できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした

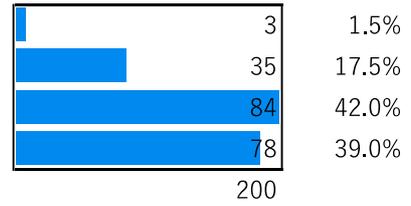


F. 授業を欠席した



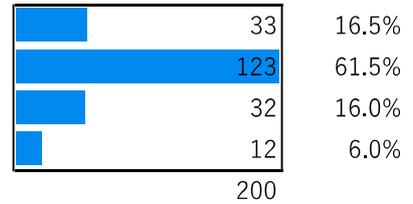
G. 授業に遅刻した

ひんぱんにあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった



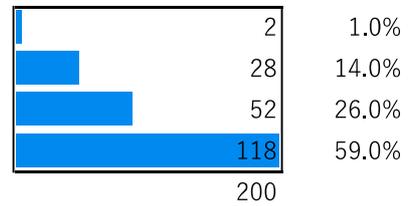
H. 授業をつまらなく感じた

ひんぱんにあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった



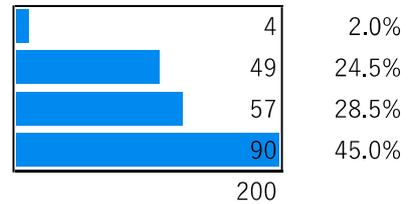
I. 教員が主催（又は共催）する研究プロジェクトに参加した

ひんぱんにあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった



J. 単位とは無関係の、教員・学生などが主催する自主的な勉強会に参加した

ひんぱんにあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった



(3) あなたは、次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を使っていますか。

※1週間=24時間×7日=168時間

※1週間当たりの最大授業時間は、1日5コマ×5日間(月～金)=37.5時間

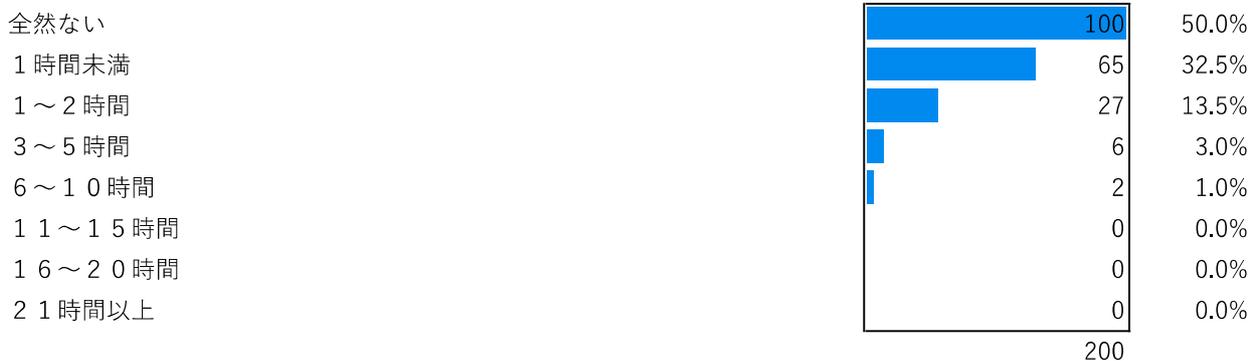
A. 履修している授業の予習・復習・課題などをする



B. 履修している授業の予習・復習・課題以外の学修をする



C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



D. 部活動や同好会に参加する



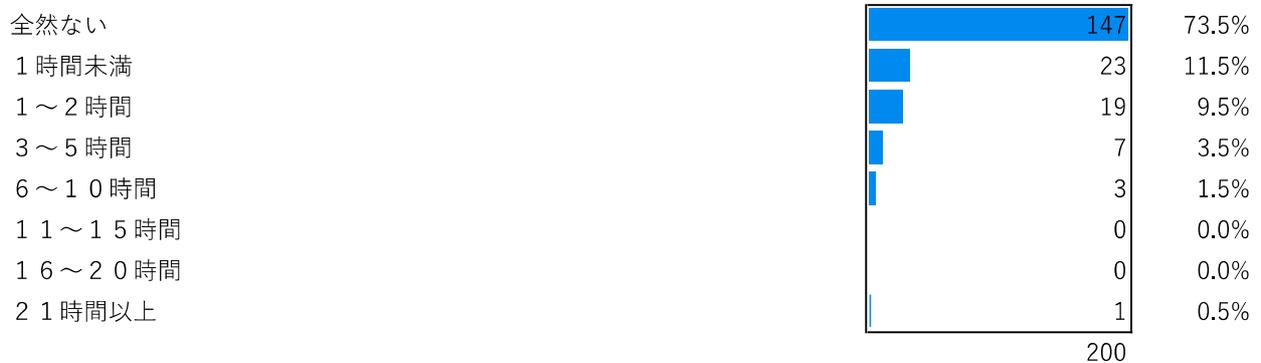
E. アルバイトや仕事をする



F. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）



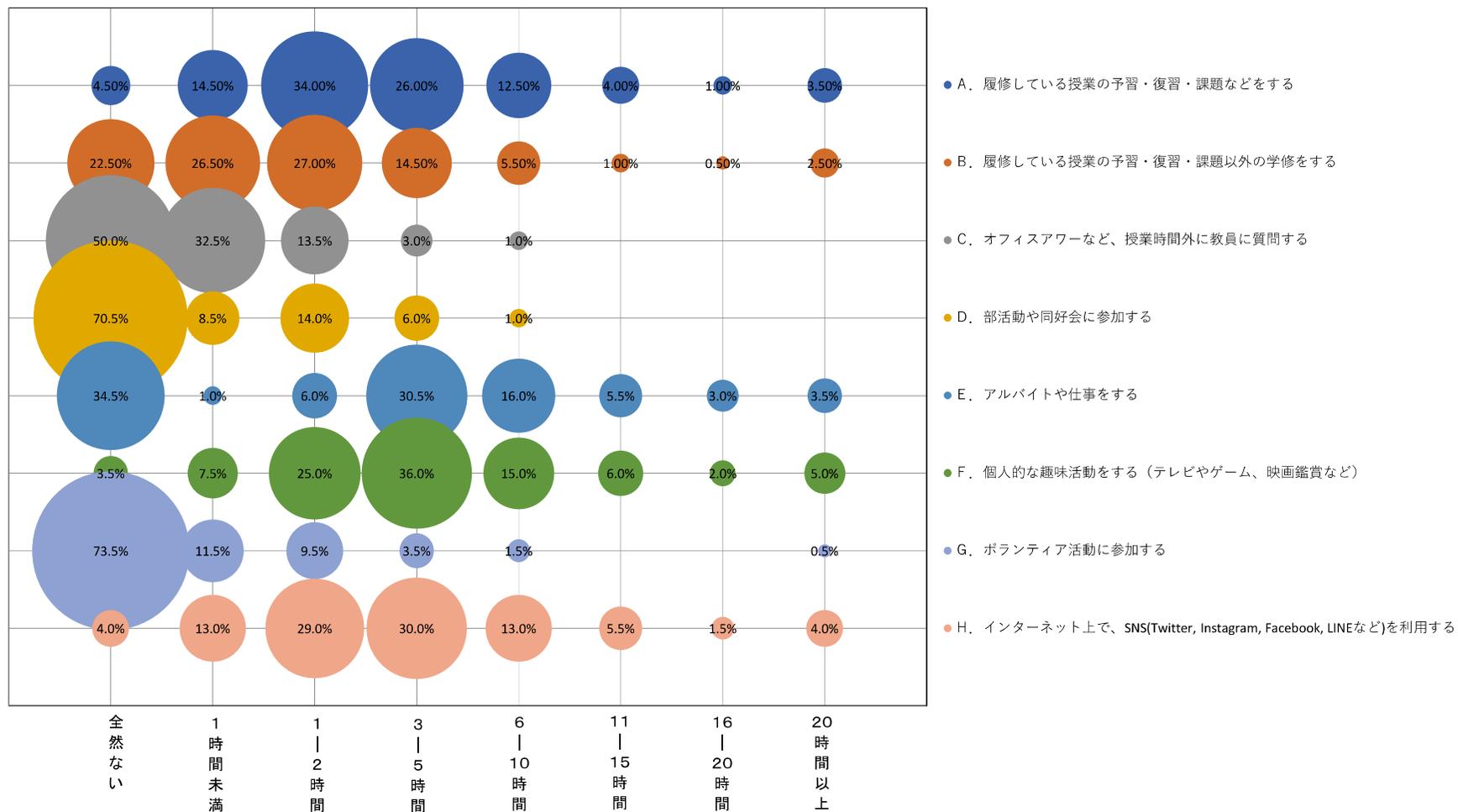
G. ボランティア活動に参加する



H. インターネット上で、SNS(Twitter, Instagram, Facebook, LINEなど)を利用する



2022（3）入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか



(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養



B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的（多面的・客観的）に考える能力

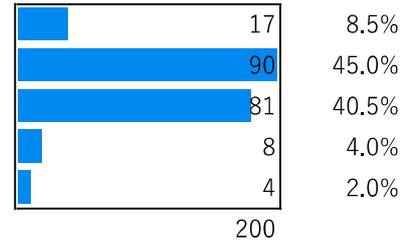


E. 異文化の人々に関する知識



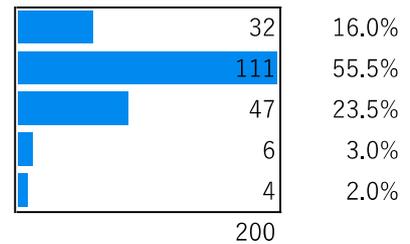
F. リーダーシップの能力

大きく増えた
 増えた
 変化なし
 減った
 大きく減った



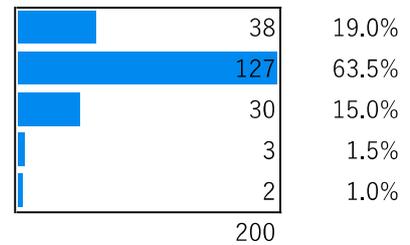
G. 人間関係を構築する能力

大きく増えた
 増えた
 変化なし
 減った
 大きく減った



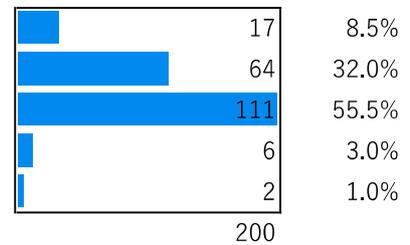
H. 他の人と協力して物事を遂行する能力

大きく増えた
 増えた
 変化なし
 減った
 大きく減った



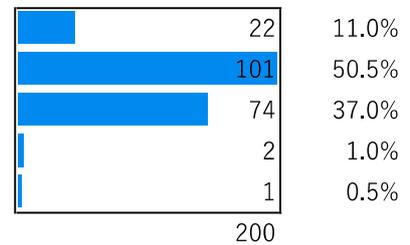
I. 異文化の人々と協力する能力

大きく増えた
 増えた
 変化なし
 減った
 大きく減った



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力

大きく増えた
 増えた
 変化なし
 減った
 大きく減った



K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力



N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



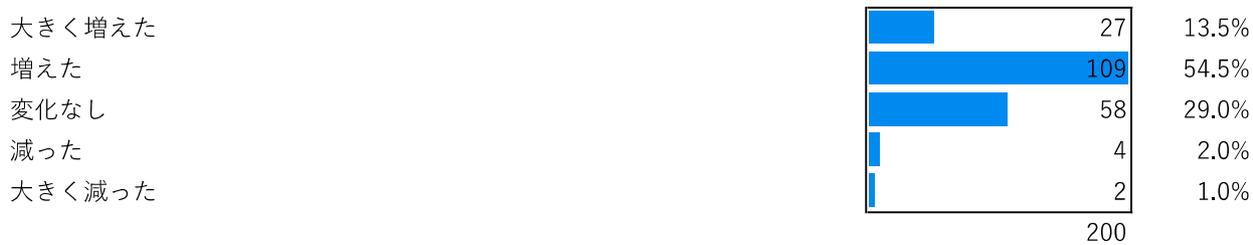
P. 数理的な能力



Q. コンピュータの操作能力



R. 時間を有効に利用する能力



S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度



1. 大学に入学する前や高校時代のことについて (健康医療科学部：1年生のみ)

(1) あなたは志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。



(2) あなたは現役で本学に入学しましたか。



(3) あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。



A. 授業中、質問をする



B. 自分の意見を論理的に主張する



C. 問題の解決方法を模索し、それを他者に説明する



D. 意識的に論理的な文章を書く訓練をする



E. インターネット上の情報が事実かどうか確認する



F. 学問やスポーツなどで、困難なことにはあえて挑戦する



G. 問題に対処するために新しい解決策を模索する



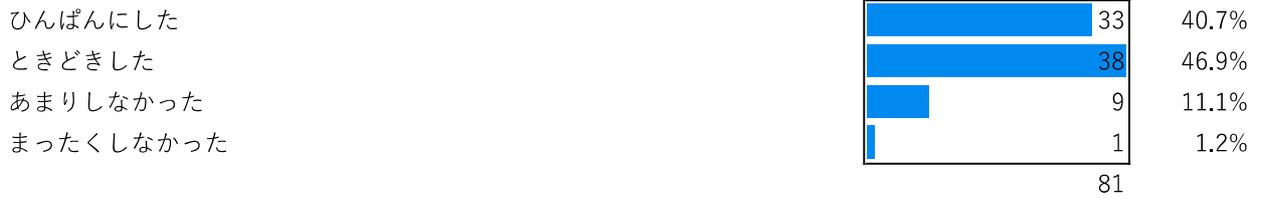
H. 科学的（自然・人文など）研究の記事や論文を読む



I. 授業以外に興味のあることを更に深めるため自分で勉強する



J. 自分の失敗から学ぶ



K. 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求める



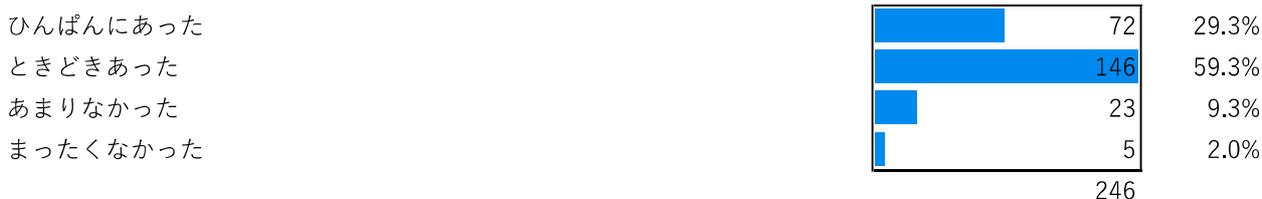
2. 大学における学修状況について（健康医療科学部）

(1) 大学の授業の中で、次のような経験をする機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなど体験的に学ぶ機会



B. 授業を通して将来の仕事に直結する知識やスキルを学ぶ機会



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



D. 授業の一環としてボランティア活動に参加する機会



E. 検討課題について、文献や資料を自分で調べる機会



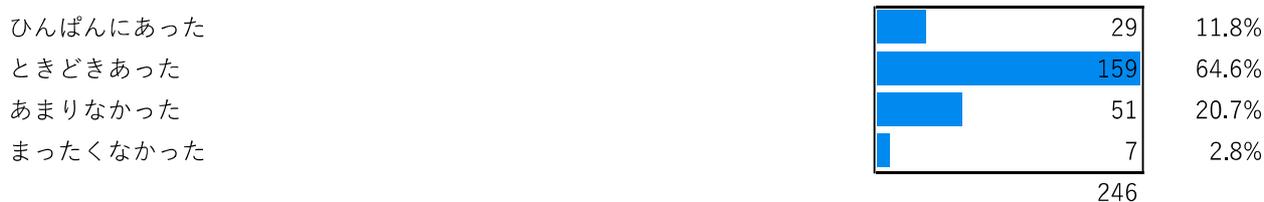
F. 小テストやレポートを課される機会



G. 添削やコメントの入ったレポートやリアクションペーパーが、返却される機会



H. 自分の考えや研究について発表する機会



I. 学生同士で、授業中に議論をする機会



J. 自分たちで検討課題を提案し、授業中に議論する機会



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる機会



(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業準備や課題のために図書館の資料を利用した



B. 授業準備や課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネット（学内LANからの接続を含む）を使って授業資料や課題を受けたり、提出したりした



D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった、或いは提出できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした

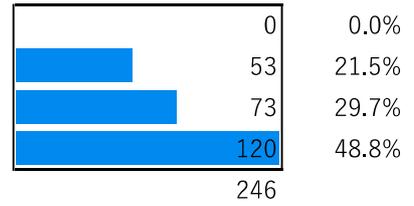


F. 授業を欠席した



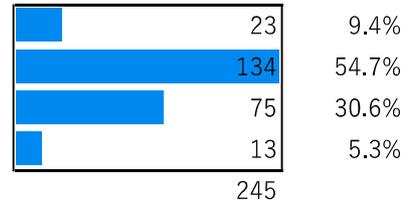
G. 授業に遅刻した

ひんぱんにあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった



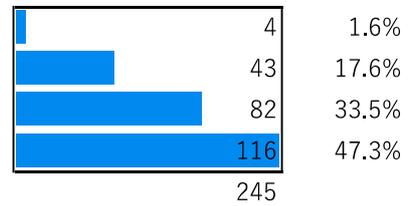
H. 授業をつまらなく感じた

ひんぱんにあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった



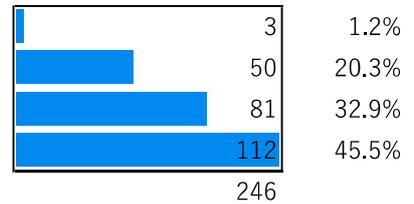
I. 教員が主催（又は共催）する研究プロジェクトに参加した

ひんぱんにあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった



J. 単位とは無関係の、教員・学生などが主催する自主的な勉強会に参加した

ひんぱんにあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった



(3) あなたは、次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を使っていますか。

※1週間=24時間×7日=168時間

※1週間当たりの最大授業時間は、1日5コマ×5日間(月～金)=37.5時間

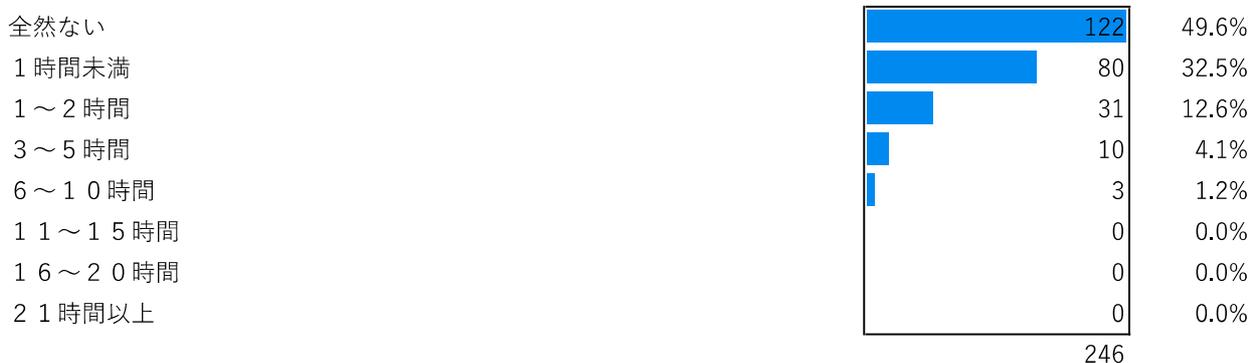
A. 履修している授業の予習・復習・課題などをする



B. 履修している授業の予習・復習・課題以外の学修をする



C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



D. 部活動や同好会に参加する



E. アルバイトや仕事をする



F. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）



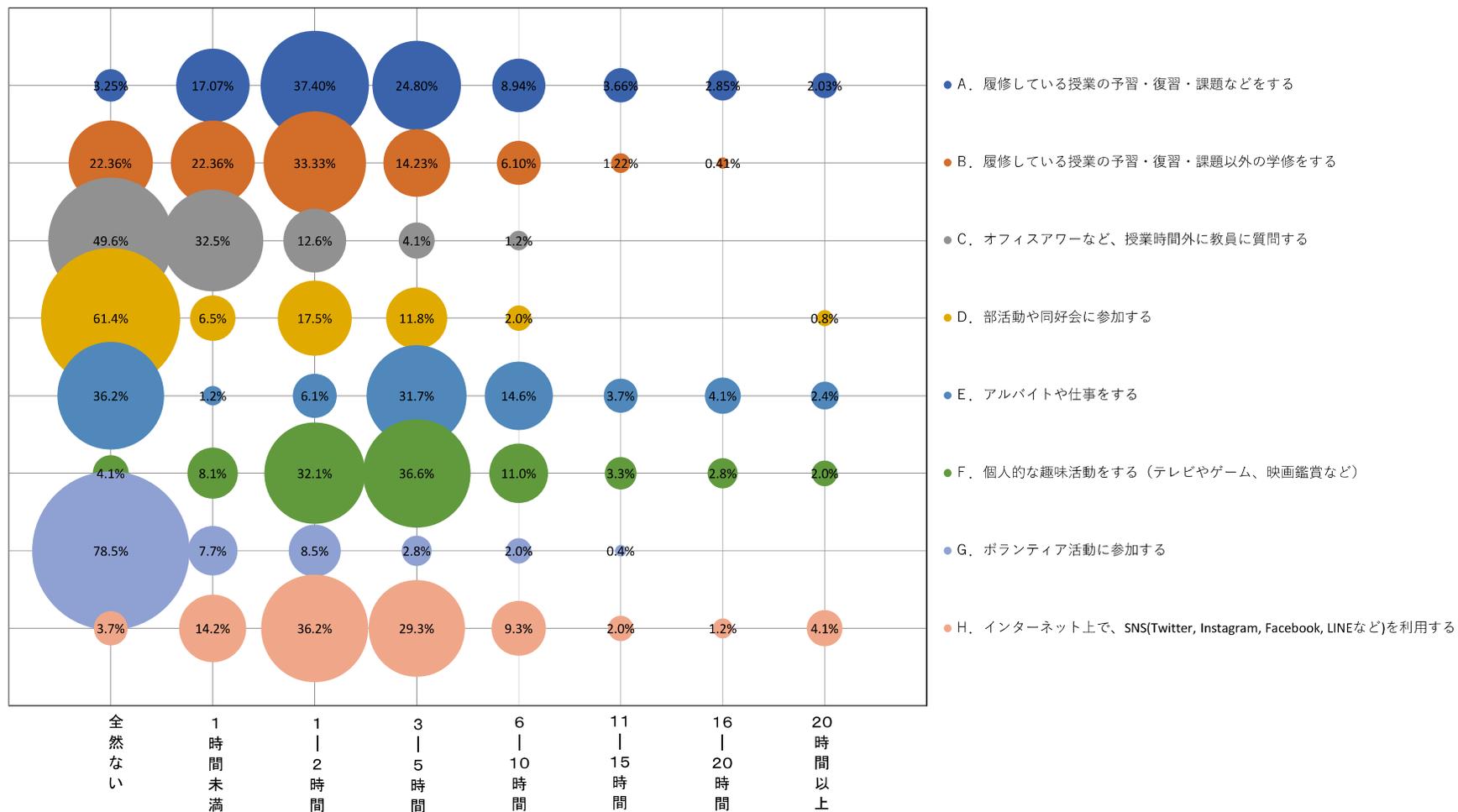
G. ボランティア活動に参加する



H. インターネット上で、SNS(Twitter, Instagram, Facebook, LINEなど)を利用する



2022（3）入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか

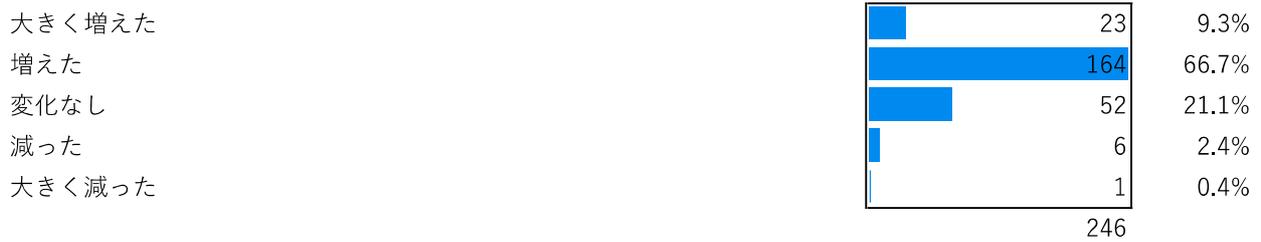


(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養



B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的（多面的・客観的）に考える能力



E. 異文化の人々に関する知識



F. リーダーシップの能力



G. 人間関係を構築する能力



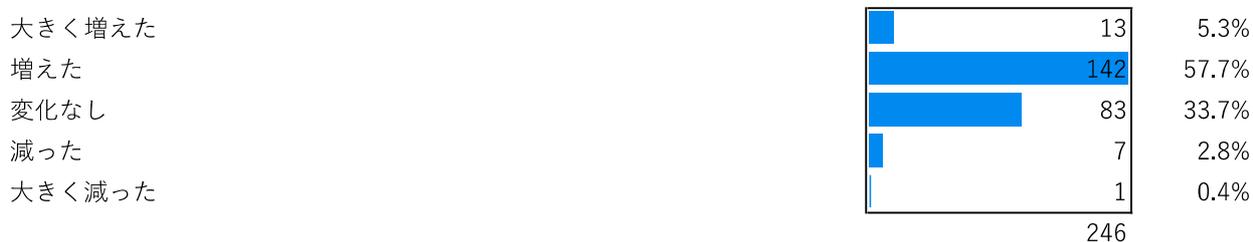
H. 他の人と協力して物事を遂行する能力



I. 異文化の人々と協力する能力



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力



K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力



N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



P. 数理的な能力



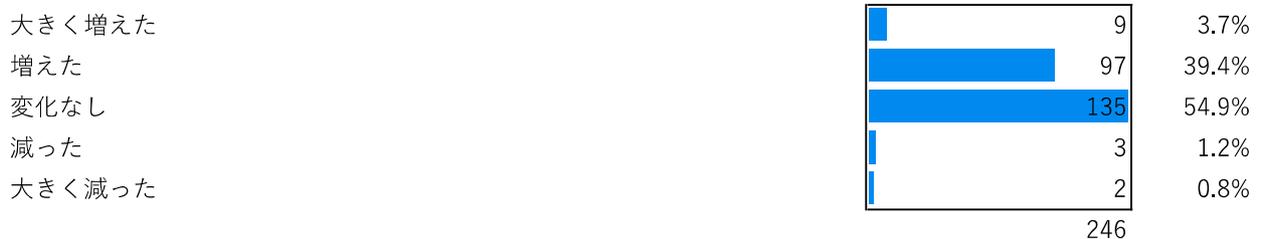
Q. コンピュータの操作能力



R. 時間を有効に利用する能力



S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度



2022 年度 医療創生大学「学修行動調査」 調査結果に対する考察
(健康医療科学部作業療法学科)

健康医療科学部作業療法学科 佐野祐貴子

1. はじめに

今年度は調査対象学生が全学年となり、2021 年度よりも回答者数が増加した。そのため、昨年度の調査結果と単純に比較することは難しいとは考えるが、2021 度の調査結果も踏まえて傾向について考察する。

想定された回答者数 100 名に対し、回答者数が 66 名と回答率は 66%であった。

回答者内の各学年の内訳は、1 年生 25 名(38%)、2 年生 17 名(26%)、3 年生 20 名(30%)、4 年生 4 名(6%)であった。

2. 大学に入学する前や高校時代のことについて (1 年生のみ)

想定回答者 31 名中、24 名の回答が得られた。

2022 年度入学者のほとんどが現役であり、本学を第 1 志望とする者は 6 割程度という結果であった。昨年度よりも本学科入学者数は増えたという点で考慮が必要であるが、本学を第 1 志望としていた学生は減少傾向となっていた。高校時代について 5 割程度の学生で授業中に質問する、自分の意見を論理的に主張するという経験が少なかったことがわかった。一方、7 割以上の学生が学問やスポーツなどで、困難なことにはあえて挑戦する、問題に対処するために新しい解決策を模索してきたと回答していた。

3. 大学における学習状況についての考察

(1)あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

ほとんどの質問項目において、「ひんぱんにあった」、「ときどきあった」の回答が過半数であり、割合についても昨年度と大きく変化はみられなかった。

【D. 授業の一環としてボランティア活動に参加する機会】の項目において、過半数は「あまりなかった」、「まったくなかった」と回答をしているものの「ひんぱんにあった」、「ときどきあった」と回答した者が昨年度よりも 15%増加していた。これは、授業科目内で学外演習を行ったことや 4 年生で 4 日間のボランティア体験を行ったことなどが回答として反映されているのではないかと考える。

【G. 添削やコメントの入ったレポートやリアクションペーパーが、返却される機会】の項目においても「ひんぱんにあった」、「ときどきあった」と回答した学生が 80%となっており、昨年度の同様の質問項目と比べて 10%程度増加していた。これは、教員個々が提出された課題に対してより適切な対応を行ったことや学生自身、C-learning 等で教員からの反応を確認しているということが考えられる。

(2)大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

【H. 授業をつまらなく感じた】、【I. 教員が主催(又は共催)する研究プロジェクトに参加した】、【J. 単位とは無関係の教員・学生が主催する自主的な勉強会に参加した】については否定的な回答が過半数であった。作業療法士となる上で各科目の必要性や関連性といった点に対する十分な理解が得られていない現状があると考え。教員としては、学生の興味を引く授業設計についても工夫が必要であると考え。就職後も知識や技術の向上やアップデートは必要となることも踏まえ、学生時代から自主的に勉強会を行う(学習を習慣化する)環境づくりは必要と考える。

【A. 授業準備や課題のために図書館の資料を利用した】という項目において「ひんぱんにあった」、「ときどきあった」が過半数を占めるものの、昨年度に比べ 10%程度減少していた。2021 年度と同様にインターネット上の情報を活用した学習が主体となっており、その傾向がより強くなっていることが推察される。インターネットの情報検索は簡便ではあるが、得られた情報の吟味や活用方法については引き続き注意を促していく必要があると考える。

(3)入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか

【A. 履修している授業の予習・復習・課題などをする】において、「全然ない」、「1 時間未満」、「1～2 時間」と回答した者が 55%を占めた。【C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する】は、「全然ない」または「1 時間未満」と 82%の学生が回答している。予習・復習に関しては、面談時等を活用して実情の詳細を把握することが必要と考える。また、学生が予習や復習時間といった授業時間以外の学習を行っているかについて授業等において確認する仕組みを検討することが必要と考える。ガイダンス等でも説明は行っているが、オフィスアワー等の活用についても再度提示していくことが必要な可能性がある。

【E. アルバイトや仕事をする】の質問項目からは 60%以上の学生が何かしらのアルバイト等を行っており、昨年度よりも増加している。学業面や健康面へ影響しないよう、チューター面談等を通して個々の実情把握が必要である。特に「16～20 時間」が 6 名、「21 時間以上」が 2 名おり、注視していく必要があると考える。

【G. ボランティア活動に参加する】への回答は、「全然ない」が 80%以上であった。作業療法の対象者との接点を増やすことで、コミュニケーションを始めとした様々なスキルアップを図る上でも、ボランティア活動への参加を積極的に促していきたいところである。

(4)入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

【E. 異文化の人々に関する知識】、【F. リーダーシップの能力】、【I. 異文化の人々と協力する能力】、【K. 国民が直面する問題を理解する能力】、【M. 外国語の運用能力】、【P. 数理的な能力】、【S. グローバルな問題の理解】、【T. 卒業後に就職するための準備の程度】については「変化なし」と回答した学生が過半数であった。

新型コロナウイルスの影響もあり、国際的な交流が難しい現状や授業での取り扱いが不足していることが要因として考えられる。作業療法士の国際的な活動等についても伝えていくことで視点を広

げることにつながると思われる。

【F. リーダーシップの能力】に関しては、各科目でグループワーク等を取り入れており集団での活動機会は確保されているが、より能動的にグループ内での活動に取り組むことができるよう工夫が必要であると考ええる。

【T. 卒業後に就職するための準備の程度】については、本調査で回答している半数は、1・2年生であり、まだ就職に対するイメージがつきにくく、準備という段階に至っていないことが考えられる。一方で、【D. 批判的(多面的・客観的)に考える能力】については「大きく増えた」または「増えた」と回答した者が70%と昨年度と比べ、10%以上増加している。本年度の質問項目として「(多面的・客観的)」という文言が加えられたことにより、学生が回答しやすくなったことが推測される。

1. 大学に入学する前や高校時代のことについて (作業療法学科：1年生のみ)

(1) あなたは志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。



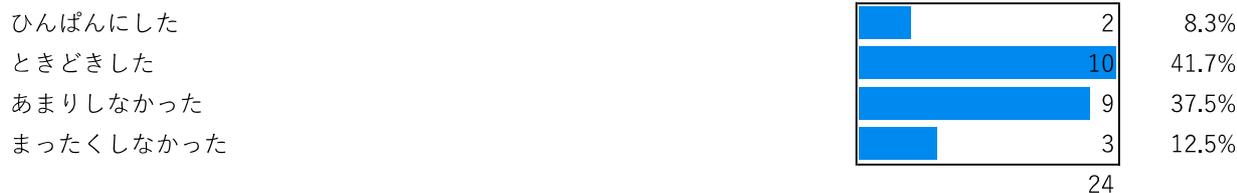
(2) あなたは現役で本学に入学しましたか。



(3) あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。



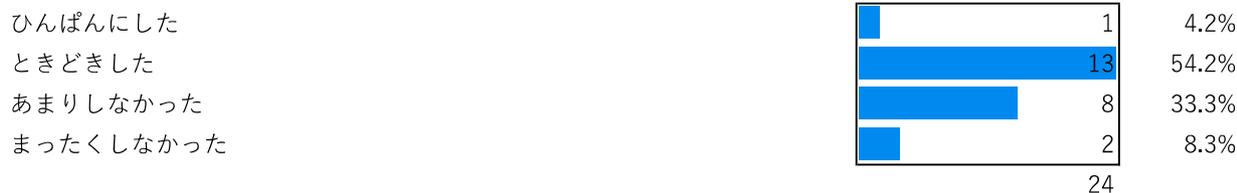
A. 授業中、質問をする



B. 自分の意見を論理的に主張する



C. 問題の解決方法を模索し、それを他者に説明する



D. 意識的に論理的な文章を書く訓練をする



E. インターネット上の情報が事実かどうか確認する



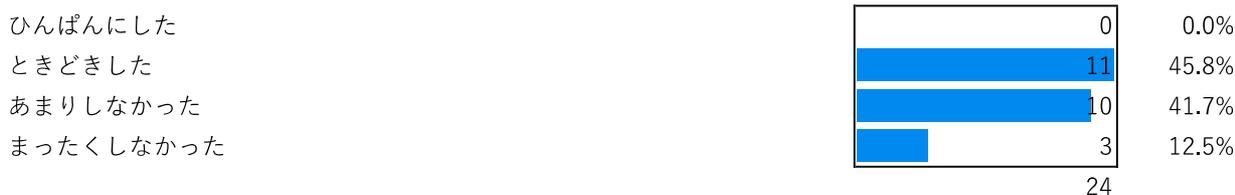
F. 学問やスポーツなどで、困難なことにはあえて挑戦する



G. 問題に対処するために新しい解決策を模索する



H. 科学的（自然・人文など）研究の記事や論文を読む



I. 授業以外に興味のあることを更に深めるため自分で勉強する



J. 自分の失敗から学ぶ



K. 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求める



2. 大学における学修状況について（作業療法学科）

(1) 大学の授業の中で、次のような経験をする機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなど体験的に学ぶ機会



B. 授業を通して将来の仕事に直結する知識やスキルを学ぶ機会



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



D. 授業の一環としてボランティア活動に参加する機会



E. 検討課題について、文献や資料を自分で調べる機会



F. 小テストやレポートを課される機会



G. 添削やコメントの入ったレポートやリアクションペーパーが、返却される機会



H. 自分の考えや研究について発表する機会



I. 学生同士で、授業中に議論をする機会



J. 自分たちで検討課題を提案し、授業中に議論する機会



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる機会

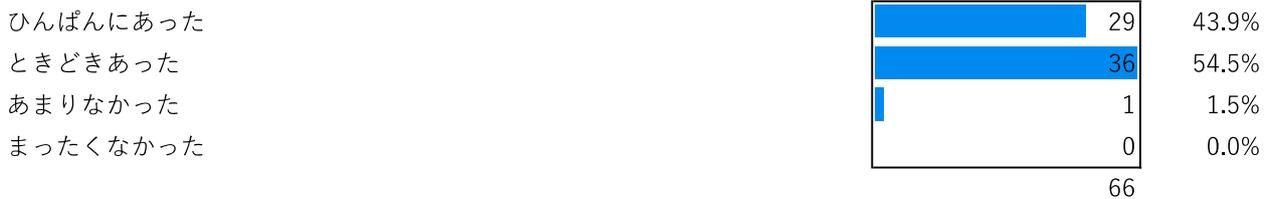


(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業準備や課題のために図書館の資料を利用した



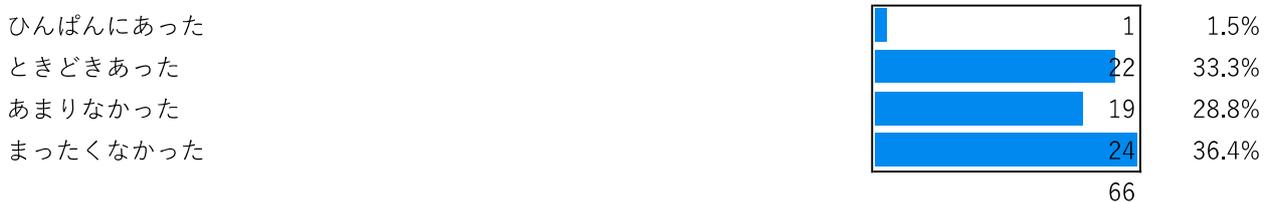
B. 授業準備や課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネット（学内LANからの接続を含む）を使って授業資料や課題を受けたり、提出したりした



D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった、或いは提出できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした

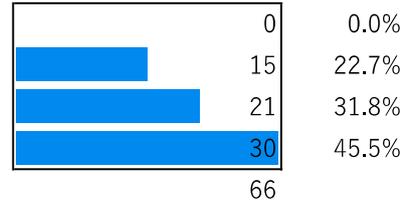


F. 授業を欠席した



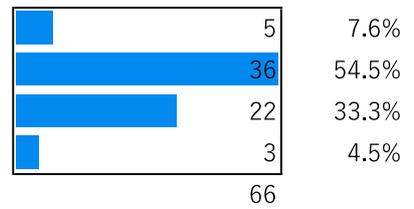
G. 授業に遅刻した

ひんぱんにあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった



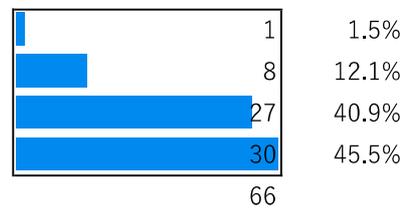
H. 授業をつまらなく感じた

ひんぱんにあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった



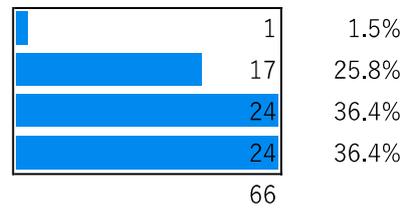
I. 教員が主催（又は共催）する研究プロジェクトに参加した

ひんぱんにあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった



J. 単位とは無関係の、教員・学生などが主催する自主的な勉強会に参加した

ひんぱんにあった
ときどきあった
あまりなかった
まったくなかった



(3) あなたは、次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を使っていますか。

※1週間=24時間×7日=168時間

※1週間当たりの最大授業時間は、1日5コマ×5日間(月～金)=37.5時間

A. 履修している授業の予習・復習・課題などをする



B. 履修している授業の予習・復習・課題以外の学修をする



C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



D. 部活動や同好会に参加する



E. アルバイトや仕事をする



F. 個人的な趣味活動をする (テレビやゲーム、映画鑑賞など)



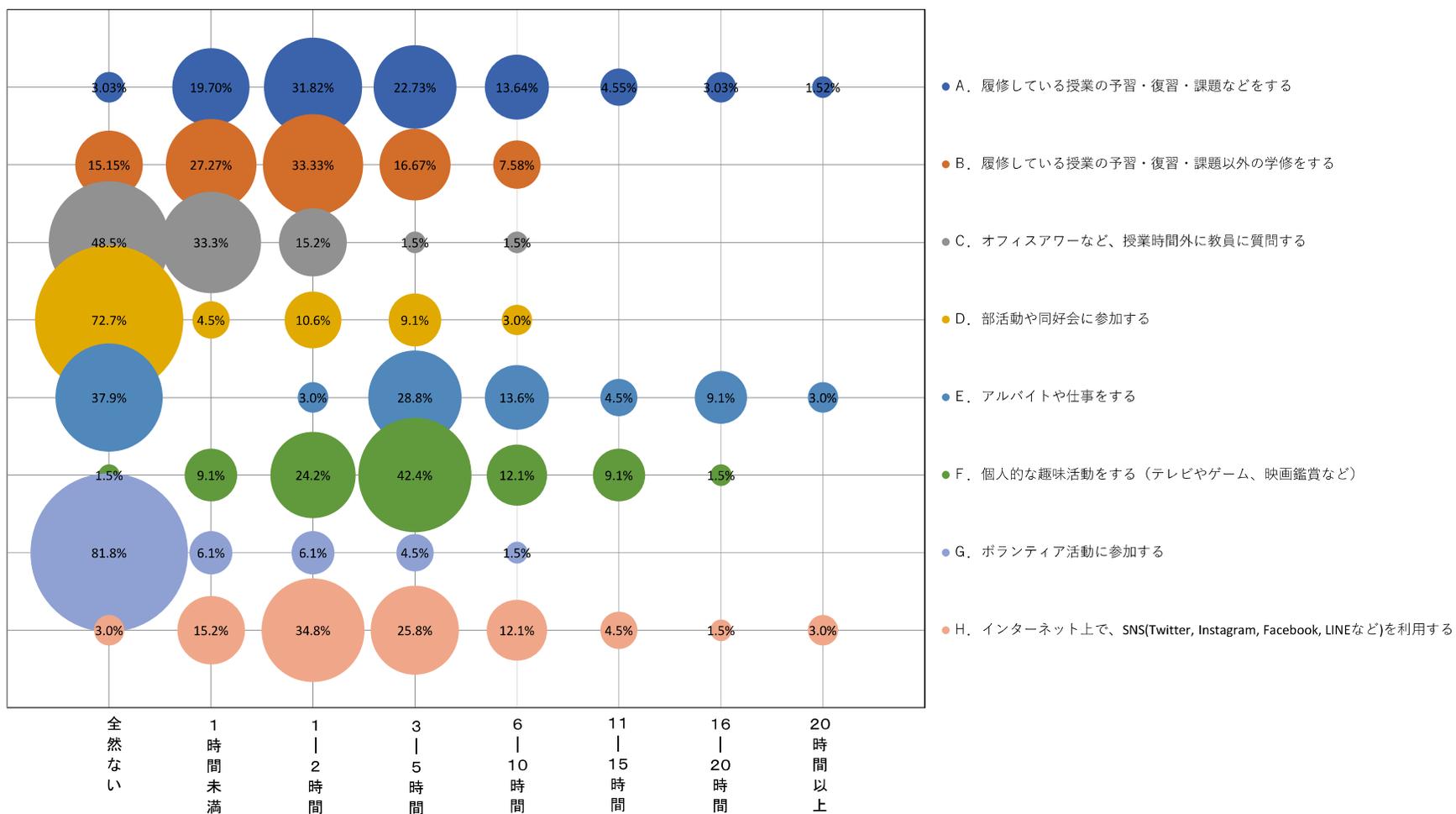
G. ボランティア活動に参加する



H. インターネット上で、SNS(Twitter, Instagram, Facebook, LINEなど)を利用する



2022（3）入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか

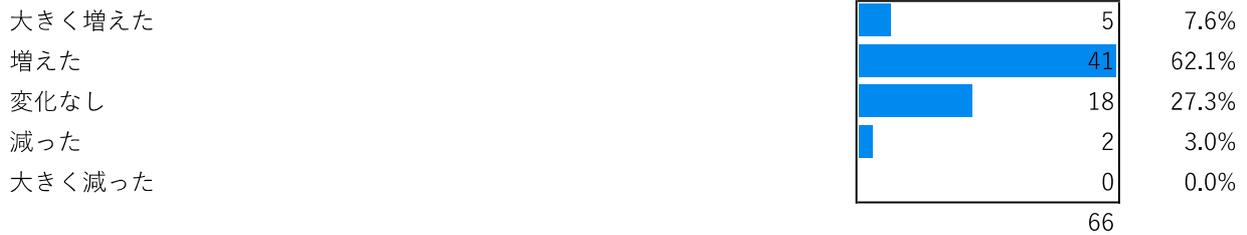


(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

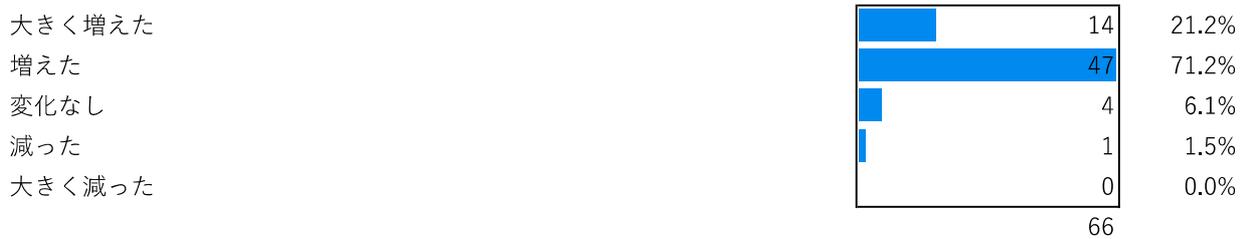
A. 一般的な教養



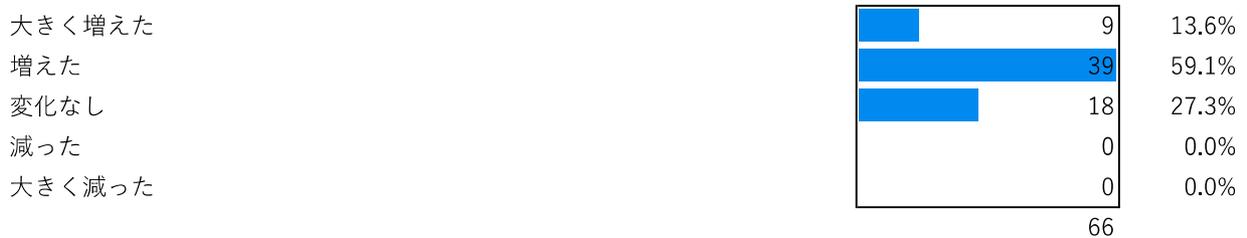
B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的（多面的・客観的）に考える能力



E. 異文化の人々に関する知識



F. リーダーシップの能力



G. 人間関係を構築する能力



H. 他の人と協力して物事を遂行する能力



I. 異文化の人々と協力する能力



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力



K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力



N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



P. 数理的な能力



Q. コンピュータの操作能力



R. 時間を有効に利用する能力



S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度



1. 対象学生

1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	合計
57 名 (32%)	52 名 (29%)	36 名 (20%)	35 名 (19%)	180 名

今年度は対象学生を全学年として調査が実施された。それにより、昨年度と比較し回答者数が増加した。一方で、回答率は約 70%に留まり、回答率の改善が今後の課題といえる。回答率については、1・2 年生と比較し 3・4 年生で低く、本調査の結果は低学年の傾向を強く反映したものと考える。また、昨年度の対象学生は 1・3 年生であり、昨年度の結果との比較においては対象学年を拡大した影響を踏まえて考察する。

2. 大学における学習状況についての考察

(1)あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

「あまりなかった」あるいは「まったくなかった」と回答した者が過半数を占めたのは、以下の質問項目であった。その他の質問項目では、「ひんぱんにあった」あるいは「ときどきあった」と回答した者が過半数を占めた。

D.授業の一環としてボランティア活動に参加する機会

【考察】新型コロナウイルス感染症の影響をうけて、地域理学療法学に関わる科目等において予定していた学外での活動を中止したことが影響したと考える。しかし、改めて学生にボランティア活動の機会を与えることのできる科目を抽出し、その学習機会の確保に努める必要がある。

「ひんぱんにあった」または「ときどきあった」と回答した割合(合計値)が 2021 年度と比較し、10%以上増加した質問項目は下記となった。

D.授業の一環としてボランティア活動に参加する機会、G.添削やコメントの入ったレポートやリアクションペーパーが返却される機会、J.自分たちで検討課題を提案し、授業中に議論する機会

【考察】質問項目 D については、学生が HEaLTh センターや福島県理学療法士会でのボランティア活動に参加する機会を増やしたことが影響したと考える。質問項目 G については、会議等において学生から提出された課題に対する対応について協議され、適切な指導を行う必要性が再確認されたことが影響したと考える。質問項目 J については、今年度より卒業研究に関わる科目において学習成果の発表会に全学年の学生が参加し、学生による自由な議論がなされる機会があったことが影響したと考える。

「あまりなかった」あるいは「まったくなかった」と回答した割合(合計値)が 2021 年度と比較し、10%以上増加した質問項目はなかった。

(2)大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

否定的な回答をした者が過半数を占めたのは、以下の質問項目であった。その他の質問項目では、肯定的な回答をした者が過半数を占めた。

H. 授業をつまらなく感じた、I. 教員が主催(又は共催)する研究プロジェクトに参加した、J. 単位とは無関係の教員・学生が主催する自主的な勉強会に参加した

【考察】質問項目 I や J に関わる活動、前出のボランティア活動等の活動が不足していることで、学生の本領域に対する興味を十分に引き出すことができず、質問項目 H でみられる結果に繋がったと推測する。学生が理学療法士の専門性を理解することができる活動に参加できる機会を創出する必要があると考える。

肯定的あるいは否定的な回答をした者の割合(合計値)が 2021 年度と比較し、10%以上増加した質問項目はなかった。

(3)入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか

以下に、各質問項目で過半数を占めた回答を示す。

- A. 履修している授業の予習・復習・課題などをする:1～2 時間、3～5 時間
- B. 履修している授業の予習・復習・課題以外の学習をする:1 時間未満、1～2 時間
- C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する:全然ない

【考察】予習・復習の指導や授業におけるそれらの成果の確認、課題等が不足している可能性がある。上記より、授業時間外学習時間を確保することが急務と考える。また、学内の自習環境を整備し、学生に学習しやすい環境を与える必要があると考える。一方、学生の学習時間は時期によって変化する。今回得られた結果がどのような時期の学習時間を反映したものか検討し、質問の内容を再検討する必要があると考える。

- D. 部活動や同好会に参加する:全然ない
- E. アルバイトや仕事をする:全然ない、3～5 時間
- F. 個人的な趣味をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など):1～2 時間、3～5 時間
- G. ボランティア活動に参加する:全然ない
- H. インターネット上で SNS(Twitter、Instagram、Facebook、LINE など)を利用する:1～2 時間、3～5 時間

【考察】質問項目 D や G に関連する活動は、新型コロナウイルス感染症の影響により集団での活動が制限されていたことが影響したと考える。医療従事者としての資質を養う上でも、質問項目 F や H に関連する個人的な活動に加えて、集団での活動を実施する時間が確保されるよう学生にはたらきかける必要があると考える。

(4)入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

「変化なし」と回答した者が過半数を占めたのは、以下の質問項目であった。その他の質問項目では、すべて肯定的な回答をした者が過半数を占めた。

F. リーダーシップの能力、**I.** 異文化の人々と協力する能力、**M.** 外国語の運用能力、**S.** グローバルな問題の理解

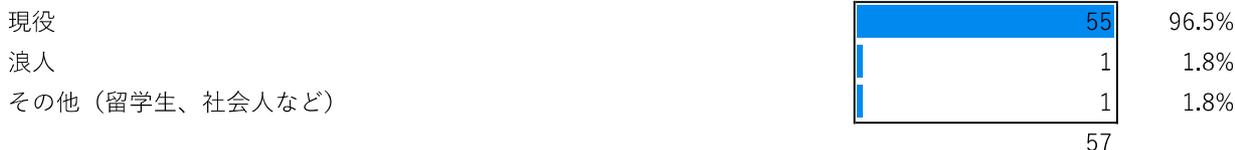
【考察】質問項目 F については、前出の集団での活動の機会が乏しいことが影響したと考える。学友会活動等への参加を促すとともに、授業においてもグループワーク等を積極的に取り入れることで学生がそれらの能力を養う機会を与える必要があると考える。その他の質問項目については、授業においてそれらに関連した内容を取り上げる機会が不足していることや新型コロナウイルス感染症の影響で留学や留学生と関わる機会がないことが影響したと考える。今後、授業において英語論文に触れる機会を増やす、海外の理学療法について話題に取り上げるなどが必要であると考え。また、短期留学や留学生を受け入れる機会があれば、積極的に学生の参加を促したい。

1. 大学に入学する前や高校時代のことについて (理学療法学科：1年生のみ)

(1) あなたは志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。



(2) あなたは現役で本学に入学しましたか。



(3) あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。



A. 授業中、質問をする



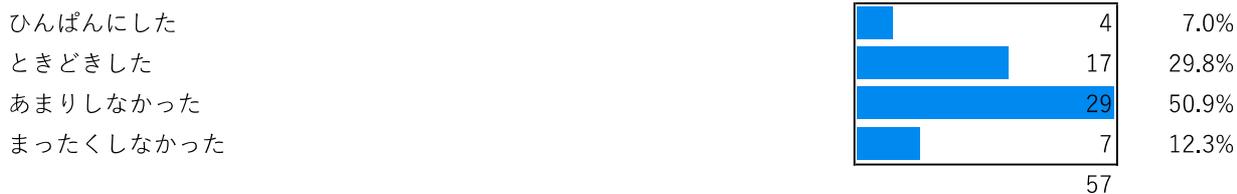
B. 自分の意見を論理的に主張する



C. 問題の解決方法を模索し、それを他者に説明する



D. 意識的に論理的な文章を書く訓練をする



E. インターネット上の情報が事実かどうか確認する



F. 学問やスポーツなどで、困難なことにはあえて挑戦する



G. 問題に対処するために新しい解決策を模索する



H. 科学的（自然・人文など）研究の記事や論文を読む



I. 授業以外に興味のあることを更に深めるため自分で勉強する



J. 自分の失敗から学ぶ



K. 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求める



2. 大学における学修状況について（理学療法学科）

(1) 大学の授業の中で、次のような経験をする機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなど体験的に学ぶ機会



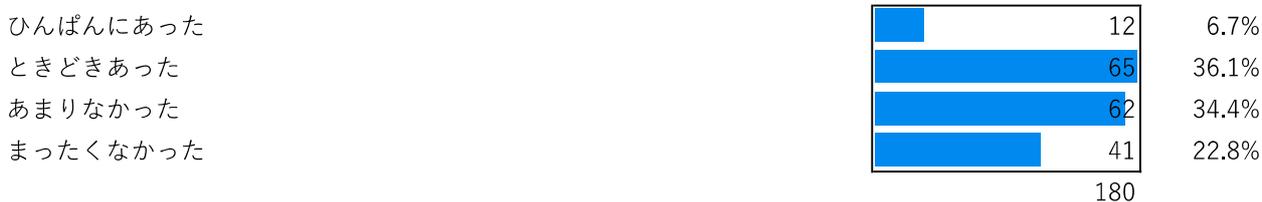
B. 授業を通して将来の仕事に直結する知識やスキルを学ぶ機会



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



D. 授業の一環としてボランティア活動に参加する機会



E. 検討課題について、文献や資料を自分で調べる機会



F. 小テストやレポートを課される機会



G. 添削やコメントの入ったレポートやリアクションペーパーが、返却される機会



H. 自分の考えや研究について発表する機会



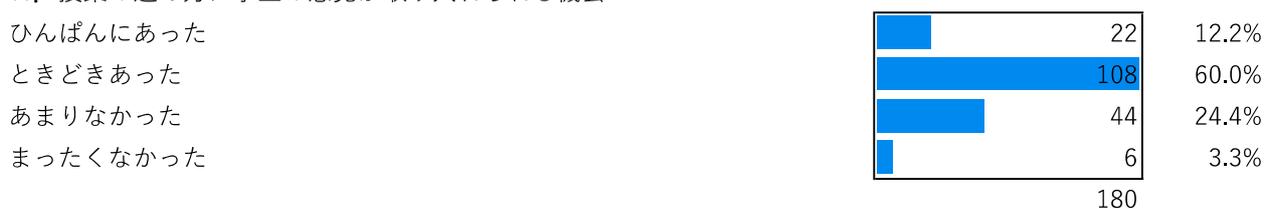
I. 学生同士で、授業中に議論をする機会



J. 自分たちで検討課題を提案し、授業中に議論する機会



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる機会



(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業準備や課題のために図書館の資料を利用した



B. 授業準備や課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネット（学内LANからの接続を含む）を使って授業資料や課題を受けたり、提出したりした



D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった、或いは提出できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした



F. 授業を欠席した



G. 授業に遅刻した



H. 授業をつまらなく感じた



I. 教員が主催（又は共催）する研究プロジェクトに参加した



J. 単位とは無関係の、教員・学生などが主催する自主的な勉強会に参加した



(3) あなたは、次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を使っていますか。

※1週間=24時間×7日=168時間

※1週間当たりの最大授業時間は、1日5コマ×5日間(月～金)=37.5時間

A. 履修している授業の予習・復習・課題などをする



B. 履修している授業の予習・復習・課題以外の学修をする



C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



D. 部活動や同好会に参加する



E. アルバイトや仕事をする



F. 個人的な趣味活動をする (テレビやゲーム、映画鑑賞など)



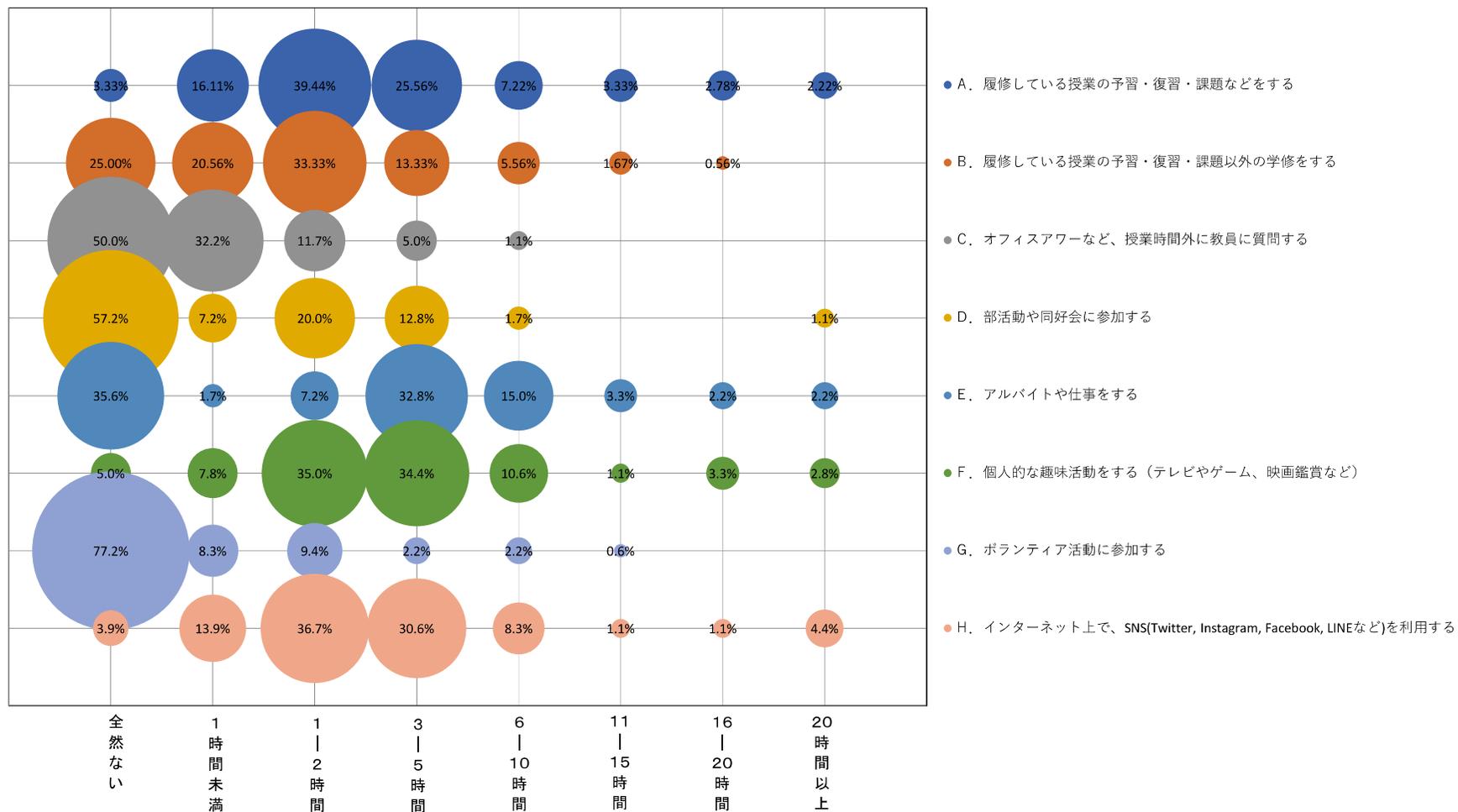
G. ボランティア活動に参加する



H. インターネット上で、SNS(Twitter, Instagram, Facebook, LINEなど)を利用する



2022（3）入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか



(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養



B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的（多面的・客観的）に考える能力



E. 異文化の人々に関する知識



F. リーダーシップの能力



G. 人間関係を構築する能力



H. 他の人と協力して物事を遂行する能力



I. 異文化の人々と協力する能力



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力



K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力



N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



P. 数理的な能力



Q. コンピュータの操作能力



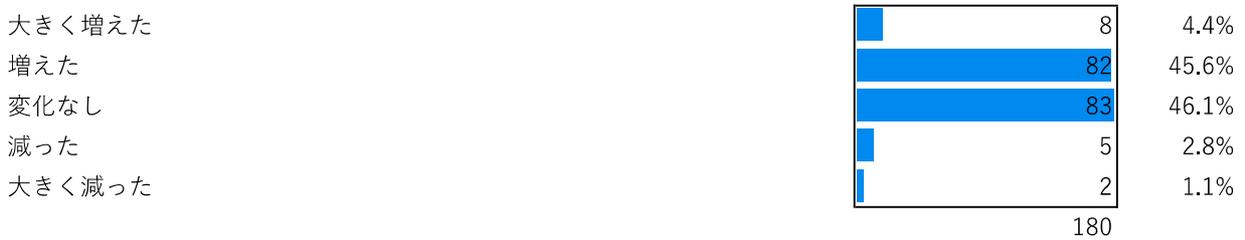
R. 時間を有効に利用する能力



S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度



心理学部の考察

心理学部カリキュラム委員会 IR 班

2021 年度の考察概要

・回答率：回答対象者は1年生のみで項目ごとに異なるが7割強から8割（2020年度に比べて微増）

・解釈の観点1：「(1) あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会ほどのくらいありましたか」と「(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか」については、「1. ひんぱんにあった」と「2. ときどきあった」を合算し「あった」とする

・解釈の観点2：「(3) 入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらい時間を費やしましたか」については、最頻値に着目

・解釈の観点3：「(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識どのように変化しましたか」については、「1. 大きく増えた」と「2. 増えた」を合算し、「増えた」とする

※「大学に入学する前や高校時代のことについて」への回答については、参考にとどめ、個別の項目に対応した考察は控えた

(1) 受講した授業での経験について

・14項目の中の11項目において、「あった」との回答が過半数
・「なかった」3つの項目は、D.「授業の一環でボランティア活動をする」、J.「授業で検討するテーマを学生が設定する」、L.「取りたい授業を履修登録できなかった」

(2) 授業や授業以外の学習について

・図書館の利用状況について「なかった」者が4割弱
・積極的な授業行動を示す側の選択率が多いが「授業をつまらなく感じた」に関しては評価が二分

【考察】(1) 学部の実情をより良く知ってもらうための広報活動 (2) 当初の学生の想定とは異なっても「よし」と感じさせる魅力的な教育の提供の必要性を示唆

・教員の研究プロジェクトへの参加についても評価が二分

【考察】特定の学生のみが参加の権利を得られるようなものではなく、広く、公平に参加の機会が得られるような枠組みづくりが必要

・自主的な勉強会への参加率も高くない

【考察】何が妨げになっているのかを考えていくことが必要

・キャリアの相談ということをした者は少ないが教員への親近感はもたれている

(3) 活動についての時間配分について

・授業以外の学習時間は1時間/日程度の者が多い

・教員への授業時間外の質問はない

・学友会にも参加していない

・アルバイトは行っていないものが最多数派となり、次いで、6-10時間

【考察】学年進行とともに、アルバイトを行う学生は増えていくものと考えられる。平日の予習・復習の時間は、夕方・夜が最頻値であるが、今後、アルバイトを行う者の増加、勤務時間の増加に伴い、深夜の時間帯へと移行する可能性もある

✓安い賃金での長時間労働に、休みも削って従事させられないよう注意を払う必要性

✓読書やボランティアの時間を取れるような環境を学校が整える必要性

結語

学生自らが興味、関心を抱いたことについて、集中して探求することに時間を割けるようにすることが、「大学」としては求められていると考えられる。

2022年度の結果について、2021年度と同様の観点により、結果の解釈を行う。

はじめに

1年生のみを対象とした質問項目には、全在籍者38名中38名ないし37名の回答が得られていた。また、全学年（1年生から3年生）107名の在籍者から、休学者を除いた104名の内、101名ないし102名から回答が得られており、回答率は9割を超えた。後期ガイダンス時に回答時間を設けたことにより、ほぼ全在籍学生から回答を回収することができた。反面、不誠実な回答を得ることにもつながった。以下、昨年度と同様の観点により考察を加えるが、本年度については、1年生のみを対象とした項目についても考察したい。

1. 大学に入学する前や高校時代のことについて

第1 志望での現役合格生が多くを占めると考えられる。授業中に積極性をみせてきた層と、見せてこなかった層で2分されている印象である。また、論理的な文章を書く訓練や、インターネット上の情報の真偽の確認を行ってきた者が過半数を占めており、基本的なりテラシーについて、既に取り組んできた者が多い。さらに、困難のことへの挑戦や問題解決策の模索、自分での勉強や失敗からの学びはさら占める割合が大きくなっている。ただし、科学的な研究の記事や論文を読んだり、課題について教師に意見を求めたりした者は少ない。以上をまとめると、一人でまじめに努力してきたタイプの学生が多いことがうかがえる。

2. 大学における状況について

(1) 受講した授業での経験について

11項目の内、「あった」との回答は過半数を占めたのが10項目であった。項目が変更されているが、昨年度は、「なかった」が過半数を占めたJ。「自分たちで検討課題を提案し、授業中に議論する機会（昨年「授業で検討するテーマを学生が設定する」から表現変更）も「あった」が過半数を占めた。昨年度は1年生のみの回答であったが、本年度は3年生までの回答が得られている。1年次のフレッシュャーズセミナーから始まり、アクティブラーニング形式の授業が多く行われている。学年進行に従ってさらに、自分たちの提案を行う学生が増えてきていることを示す結果かもしれない。

学生たちのより積極的な姿勢伺える反面、昨年同様 D.「授業の一環でボランティア活動をする」は「なかった」者が過半数を占めた。新型コロナウイルス感染の影響から未だ逃れられないが、状況が改善されていく中で、社会的な接点を多く持てるような活動が求められるだろう。

なお、昨年度「なかった」が過半を占めた L.「取りたい授業を履修登録できなかった」は今回の質問項目から削除されている。全学的には必修科目が多いために、あまり意味をなさない項目とは考えられるが、反面、心理学部については、必修の縛りは少ない。しかしながら、卒業に必要な単位に含められる共通教育科目の種類は最も少ない。高校時代に、まじめに一人で努力してきた学生たちが集まる傾向が今後も続くならば、「授業以外に興味のあることを更に深めるために自分で勉強」をしてきた学生たちの、より多様なニーズを受け入れるための教養教育の充実が求められるだろう。

(2) 授業や授業以外の学習について

昨年1年生のみの回答では、図書館の利用状況について「なかった」者が4割弱もいたが、本年度は3割に満たないほどに割合を減らしている。学年進行に従って、より高度な課題に対応するために、図書館の利用率が上がるのだろう。また、期限までに課題を完成・提出できない者も増えていた。そのほか、本年度も、概ね積極的な姿勢が示されており、特に、授業の欠席、遅刻は「なかった」者が多く、ここでも全体的にはまじめな本学部の学生像が示されている。

ただし、「授業をつまらなく感じた」に対する回答が二分される傾向は本年度も見られる。とはいえ、「ひんぱんにあった」者は7名に留まる。離籍者対策のためにも、昨年の同様の取組の必要性が示唆される。また、二分されていた「プロジェクトの参加」については、本年度は、「あった」ものが2割強にとどまる。昨年、「広く、公平に参加の機会が得られるような枠組みづくり」の必要性を提言したが、実際には、「特定の学生のみが参加の権利を得られるようなもの」である傾向がさらに強まってしまっているとみられる。自主的な勉強会への参加率の低さも変わらずみられている。

(3) 活動についての時間配分について

授業以外の学習時間は A では 1-2 時間/週、B でも 1-2 時間/週が最も多く、合算して考えると、1 時間/日に満たない者が多いと考えられる。一見すると少ないとも思える数字であるが、科目ごとに必要とされる学習時間は異なるだろう。画一的な時間による単位認定の考え方が改められる今、「授業方法別に必要な授業時間数の基準を定めた規定を廃止することにより、様々な授業方法を組み合わせた授業科目の設定をより柔軟に行い得るようにすることを期待する」(文部科学省「令和4年度大学設置基準等の改正に係る Q&A」より引用) 科目ごとのアンケート項目において学習時間を個別に確かめ、より詳細に実態に迫ることが求められていると考えられる。

教員への授業時間外の質問はなく、学友会にも参加していない。アルバイトは行っていないものが最多数派となり、次いで、3-5 時間/週であったが、16-20 時間/週の学生も 1 割弱

存在した。趣味のために割く時間は3-5時間/週が最も多く、ボランティア活動は行っていない。SNSの利用も3-5時間/週が最も多い。単純に7日で割ると、0.4-0.7時間/日となる。学年進行とともに、アルバイトを行う学生は増えていくと予測した傾向については、今回の結果からはみられなかった。しかしながら、16時間/週を超えるアルバイトに従事している学生が1割弱いることを考えると、「安い賃金での長時間労働に、休みも削って従事させられないよう注意を払う必要性」はやはり考慮すべきであり、「読書やボランティアの時間を取れるような環境を学校が整える必要性」はやはり存在すると考えられる。

(4) 能力や知識についての入学した時点との変化

20項目中「増えた」が過半数を占めたのが、12項目あり、様々な能力・知識が増えたことが学生に自覚されている。F.「リーダーシップの能力」、I.「異文化の人々と協力する能力」、K.「国民が直面する問題を理解する能力」、M.「外国語の運用能力」、P.「数理的な能力」、S.「グローバルな問題の理解」、T.「卒業後に就職するための準備の程度」については、「変化なし」が過半数を占め、O.「プレゼンテーションの能力」については、「変化なし」が過半数に迫った。

本学では、他の国籍、文化の学生と触れ合う機会は皆無であり、I、M、Sの変化を感じられないのは、致し方ない。加えて、Kについても変化が感じられておらず、多様な人々との社会的な接点づくりが必要であると考えられる。文系に属する心理学であるが、統計を用いることが必須である。1年生から、統計の授業が行われるが、不得手とする学生も少なくない。Pにおいて、変化を感じられないのは、「やはり、数理はできない」との思いを持つ学生の割合が大きいことを示唆する。特定の科目だけでなく、様々な科目において、統計能力を高めることが求められている。

Tについては、出口までがストレートラインではない本学部の特徴が現れていると考えられる。大学在籍時に自身のキャリアについて考えることにより、主体的に進路決定する姿勢を養いたい。次年度4年生までのデータが揃うことにより、この数値は、下位学年での変化のなさ、上位学年での増加とに二分されると想定できる。

最後に、Oであるが、「増えた」と回答している学生も半数に迫っている。一人でまじめに頑張る学生にとって、人前に出て発表することには大きな壁がある。大学においては様々なプレゼンテーションの機会が設けられており、学年が上がるとともに、能力の増大を感じられるような工夫を続けていくことが、授業者側には必要とされるだろう。Fの変化のなさも併せて考えると、リーダーとして前に出る機会を、様々な学生が経験できるような仕組みを作ることも検討したい。

また、残念ながら「減った」との回答も0ではなかったが、能力が「大きく減った」とは、何を意味するのか疑問も残る。この選択肢を残すことが適切なかどうか検討することも必要だろう。

1. 大学に入学する前や高校時代のことについて (臨床心理学部：1年生のみ)

(1) あなたは志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。



(2) あなたは現役で本学に入学しましたか。



(3) あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。



A. 授業中、質問をする



B. 自分の意見を論理的に主張する



C. 問題の解決方法を模索し、それを他者に説明する



D. 意識的に論理的な文章を書く訓練をする



E. インターネット上の情報が事実かどうか確認する



F. 学問やスポーツなどで、困難なことにはあえて挑戦する



G. 問題に対処するために新しい解決策を模索する



H. 科学的（自然・人文など）研究の記事や論文を読む



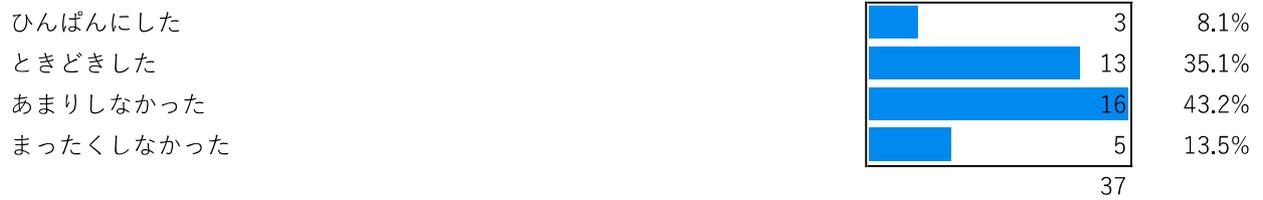
I. 授業以外に興味のあることを更に深めるため自分で勉強する



J. 自分の失敗から学ぶ



K. 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求める



2. 大学における学修状況について（臨床心理学部）

(1) 大学の授業の中で、次のような経験をする機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなど体験的に学ぶ機会



B. 授業を通して将来の仕事に直結する知識やスキルを学ぶ機会



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する



D. 授業の一環としてボランティア活動に参加する機会



E. 検討課題について、文献や資料を自分で調べる機会



F. 小テストやレポートを課される機会



G. 添削やコメントの入ったレポートやリアクションペーパーが、返却される機会



H. 自分の考えや研究について発表する機会



I. 学生同士で、授業中に議論をする機会



J. 自分たちで検討課題を提案し、授業中に議論する機会



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる機会



(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか。

A. 授業準備や課題のために図書館の資料を利用した



B. 授業準備や課題のためにインターネット上の情報を利用した



C. インターネット（学内LANからの接続を含む）を使って授業資料や課題を受けたり、提出したりした



D. 提出期限までに授業課題を完成できなかった、或いは提出できなかった



E. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容について話したりした



F. 授業を欠席した



G. 授業に遅刻した



H. 授業をつまらなく感じた



I. 教員が主催（又は共催）する研究プロジェクトに参加した



J. 単位とは無関係の、教員・学生などが主催する自主的な勉強会に参加した



(3) あなたは、次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を使っていますか。

※1週間=24時間×7日=168時間

※1週間当たりの最大授業時間は、1日5コマ×5日間(月～金)=37.5時間

A. 履修している授業の予習・復習・課題などをする



B. 履修している授業の予習・復習・課題以外の学修をする



C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



D. 部活動や同好会に参加する



E. アルバイトや仕事をする



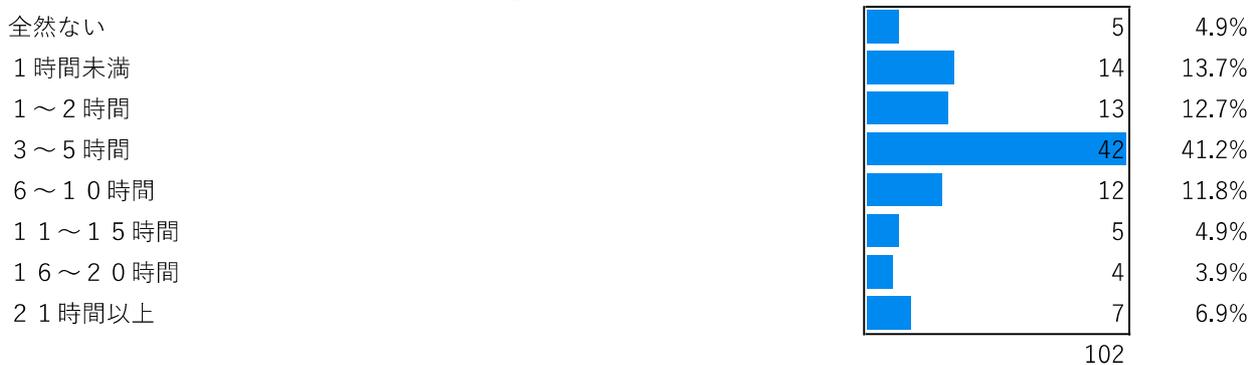
F. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）



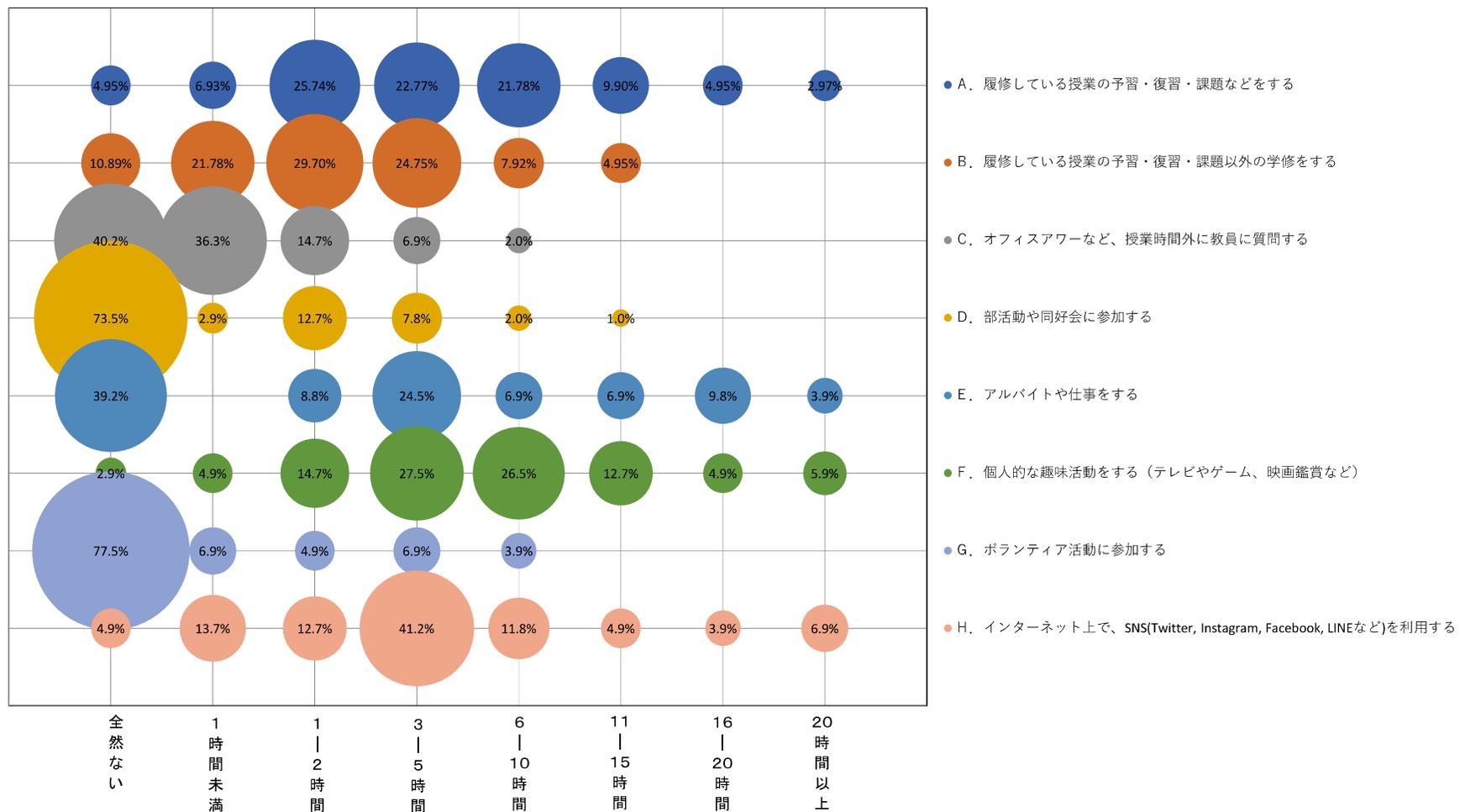
G. ボランティア活動に参加する



H. インターネット上で、SNS(Twitter, Instagram, Facebook, LINEなど)を利用する



2022（3）入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか



(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養



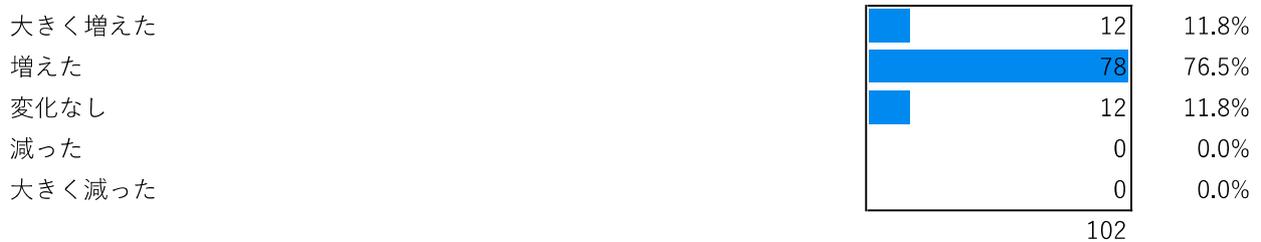
B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的（多面的・客観的）に考える能力



E. 異文化の人々に関する知識



F. リーダーシップの能力



G. 人間関係を構築する能力



H. 他の人と協力して物事を遂行する能力



I. 異文化の人々と協力する能力



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力



K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



M. 外国語の運用能力



N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



P. 数理的な能力



Q. コンピュータの操作能力



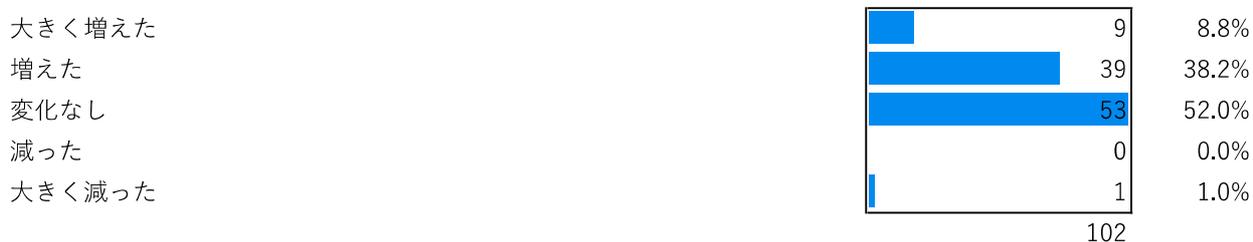
R. 時間を有効に利用する能力



S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度



「学習行動調査」結果に対する考察

1. 1年生のみ

(1) あなたは志望大学の中で、本学は第1志望でしたか？

(2) あなたは現役で本学に入学しましたか。

どういった学生が入学しているのかということが理解できた。

(3) あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

高校での成績については、高校のレベルがどういったところかということが教員には公表されていないため、「中くらい」が大学での学習にどのくらい影響があるのかということ进行分析できるほどの情報ではないと思われる。

(4) あなたが高校3年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

積極的に学ぶ姿勢、解決方法を模索するという取り組みなど、大学での学修に必要な能力を高校で身に付けていないと理解できる。本学に入学した段階で、こうしたレディネスが不足しているということを理解し、段階を追った指導が必要であるように思う。また、入学前に必要なガイダンスを対面で実施したり、総合型選抜や推薦入試で早期に入学が決定した学生に対しては、大学の講義を先取り実施し、単位認定に繋げたりするなど、他大学で実践しているような入学後学修に繋げる工夫も必要かもしれない。

2. 大学における学修状況について

(1) 大学の授業の中で、次のような経験をする機会はどのくらいありましたか？

A・C: アクティブラーニングを意識した授業展開がされている結果であり、引き続き継続していきたい。

D: ボランティア活動については推進する説明もされておらず、学内外から学生を対象としたボランティア活動要請が来ているわけではないため、活動者が少ないのは仕方がないのではないかとと思われる。そもそも、授業の中でボランティア活動をするというのは、どういうことなのか、シラバスにもボランティア活動を行う等の記載は見当たらない。また、ボランティア活動やクラブ活動の参加は個人の判断によるものであるが、幅広い体験や興味あることを追求することによる人間の成長があると思うので学友会の柏支部設立を機に推薦していきたい。

G: 「あまりなかった」「なかった」が50%近い。各科目で意図があるかもしれないため返却がないことを単に否定することもできないが、可能な限り学生へのフィードバックに務める必要がある。

K: 学生に意見を尋ねるのであれば取り入れる必要があるし、取り入れないのであればその理由を説明するなど学生との対話を大切にすることが必要と思われる。

(2) 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらいしましたか？

A:「あまりなかった」「まったくなかった」と答える人の割合が多く、図書館の利用を増やす方法を考察する必要がある。図書館活用がされない理由には、図書館の開館時間と所属図書数の問題があると考えられる。この点は昨年も同様の結果であり、図書館の整備、活用できるような環境の改善は引き続きの課題である。

F・G: 授業を欠席、遅刻している者が約 30%いるというのは学習習慣として問題であり、何時間目にどういった理由かなど、細かな分析と対応が必要である。

H: 80%以上のものが「授業をつまらなく感じている」とあり、講義の教授方法について学部としての対策が必要かもしれない。興味ある授業にするための方法について授業改善アンケートを参考に真剣に考えるべきである。

(3) あなた、次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を使っていますか？

約 75%以上の人々が、週に3時間以上のアルバイトをし、インターネットと個人的な趣味活動に時間を費やし、履修科目の予習、復習、課題に時間をほとんど利用していない。週の学習時間は10時間以内であるものがほとんどであり、1単位に必要な授業時間を考えても、授業外学習時間が極端に少ないことがわかる。また、教員に質問にも行っていない。

これは、授業時間以外に学習習慣を持たない学生が多いということを意味している。大学で単位を取得するという事は、授業時間外の学習が必要であるということが認識できるように指導したり、適切な授業外課題を与えたり学習の習慣化につながるような対策の検討が必要である。

教員と学生との良い関係を築くためにオフィスタワーをもっと利用し気軽に相談できる環境にする必要がある。

(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか？

大きく増えた、増えたと答える者が多かった質問は、Q: コンピュータの操作能力のみであり、その他の能力の変化はほとんど見られない。しかしながら、大学が学生のこうした能力の向上を目指しているということを知る機会はなかったため、取り組み自体がされていないとも考えられる。まずは目指すものの教員への周知が必要かと考える。

N: コミュニケーション能力、O: プレゼンテーション能力、R: 時間を有効に活用する能力は、増えたと回答した者が半数を超えている。

N: コミュニケーション能力は、看護に関する授業や実習を通してコミュニケーション能力の必要性を理解し、努力している結果と捉えることができる。

また、O: プレゼンテーション能力は、各科目においてアクティブラーニングを積極的に取り入れており、学生がプレゼンテーションする機会も多く与えられていることから、このような結果につながっている。

R: 時間を有効に活用する力では、各科目から出される課題や事前学習、課外活動や自

身のプライベートな時間の確保など、優先順位を考えなければやりたいこと、やるべきことができないと理解し、その能力が向上したと考えられる。看護師になるうえでも優先順位を考えて行動することは非常に重要であり、このような変化を自己認識していることはとても喜ばしいことである。

一方で、M:外国語の運用能力、P:数理的な能力の変化は乏しい。外国語の授業は英語、韓国語、中国語と3か国語履修が可能であるが、「外国語の運用」、つまり外国語を使って会話するという機会は少ないようである。履修人数にもよるが、授業時間に会話を行うことは難しく、運用能力の向上を目指すのであれば、方法自体の見直しが必要である。

P:数理的な能力については、このような目標を定めるのであれば、別途数理的能力を鍛えるような科目の設定が必要であると考ええる。

これらに関しては、現在学年進行中であるためカリキュラムを変えることは困難であるが、設置申請期間終了後は低学年からこのような能力や知識を得ることができる機会を持てるよう、カリキュラムを見直す必要がある。

以上

1. 大学に入学する前や高校時代のことについて (国際看護学部：1年生のみ)

(1) あなたは志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。



(2) あなたは現役で本学に入学しましたか。



(3) あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。



A. 授業中、質問をする



B. 自分の意見を論理的に主張する



C. 問題の解決方法を模索し、それを他者に説明する



D. 意識的に論理的な文章を書く訓練をする



E. インターネット上の情報が事実かどうか確認する



F. 学問やスポーツなどで、困難なことにはあえて挑戦する



G. 問題に対処するために新しい解決策を模索する



H. 科学的（自然・人文など）研究の記事や論文を読む



I. 授業以外に興味のあることを更に深めるため自分で勉強する



J. 自分の失敗から学ぶ



K. 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求める



2. 大学における学修状況について（国際看護学部）

（1）大学の授業の中で、次のような経験をする機会はどのくらいありましたか。

A. 実験・実習・フィールドワークなど体験的に学ぶ機会



B. 授業を通して将来の仕事に直結する知識やスキルを学ぶ機会



C. 授業内容と社会や日常生活の関わりについて教員が説明する機会



D. 授業の一環としてボランティア活動に参加する機会



E. 検討課題について、文献や資料を自分で調べる機会



F. 小テストやレポートを課される機会



G. 添削やコメントの入ったレポートやリアクションペーパーが、返却される機会



H. 自分の考えや研究について発表する機会



I. 学生同士で、授業中に議論をする機会



J. 自分たちで検討課題を提案し、授業中に議論する機会



K. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる機会



(3) あなたは、次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を使っていますか。

※1週間=24時間×7日=168時間

※1週間当たりの最大授業時間は、1日5コマ×5日間(月～金)=37.5時間

A. 履修している授業の予習・復習・課題などをする



B. 履修している授業の予習・復習・課題以外の学修をする



C. オフィスアワーなど、授業時間外に教員に質問する



D. 部活動や同好会に参加する



E. アルバイトや仕事をする



F. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）



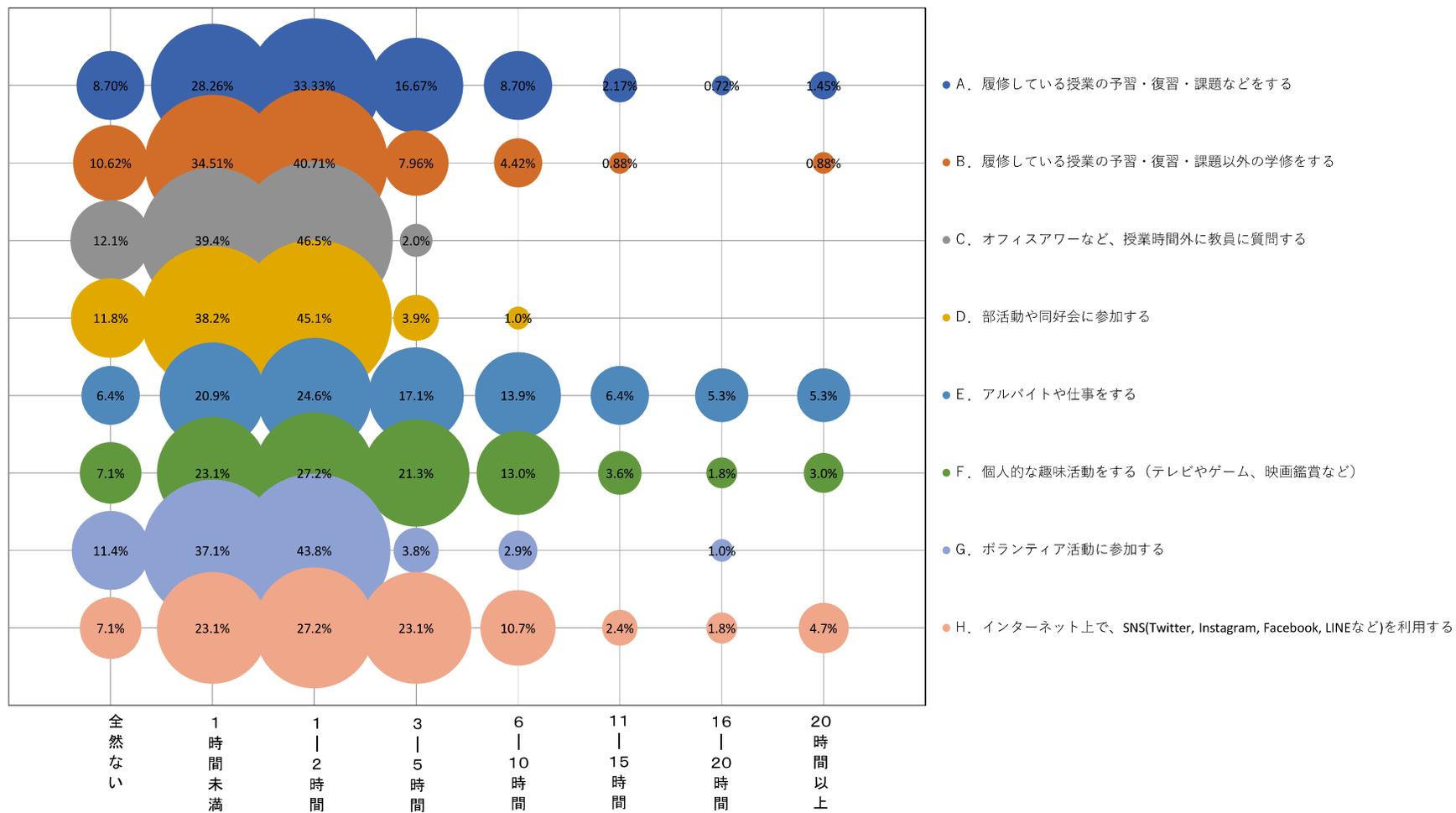
G. ボランティア活動に参加する



H. インターネット上で、SNS(Twitter, Instagram, Facebook, LINEなど)を利用する



2022（3）入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか



(4) 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

A. 一般的な教養



B. 分析力や問題解決能力



C. 専門分野や学科の知識



D. 批判的（多面的・客観的）に考える能力

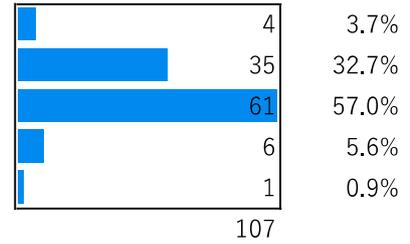


E. 異文化の人々に関する知識



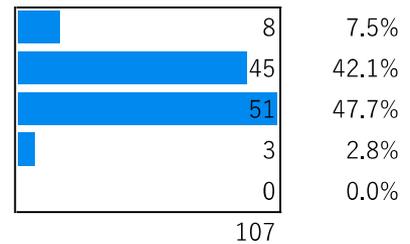
F. リーダーシップの能力

大きく増えた
 増えた
 変化なし
 減った
 大きく減った



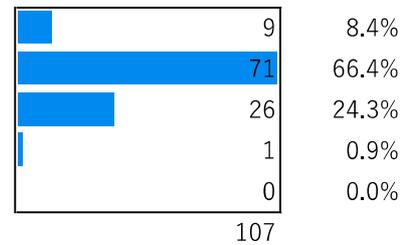
G. 人間関係を構築する能力

大きく増えた
 増えた
 変化なし
 減った
 大きく減った



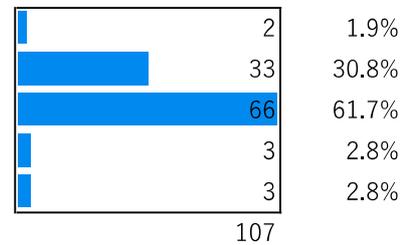
H. 他の人と協力して物事を遂行する能力

大きく増えた
 増えた
 変化なし
 減った
 大きく減った



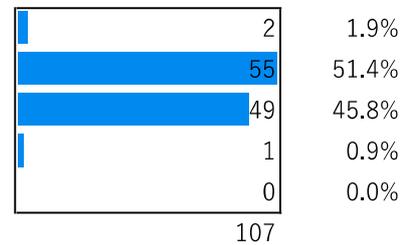
I. 異文化の人々と協力する能力

大きく増えた
 増えた
 変化なし
 減った
 大きく減った



J. 地域社会が直面する問題を理解する能力

大きく増えた
 増えた
 変化なし
 減った
 大きく減った



K. 国民が直面する問題を理解する能力



L. 文章表現の能力



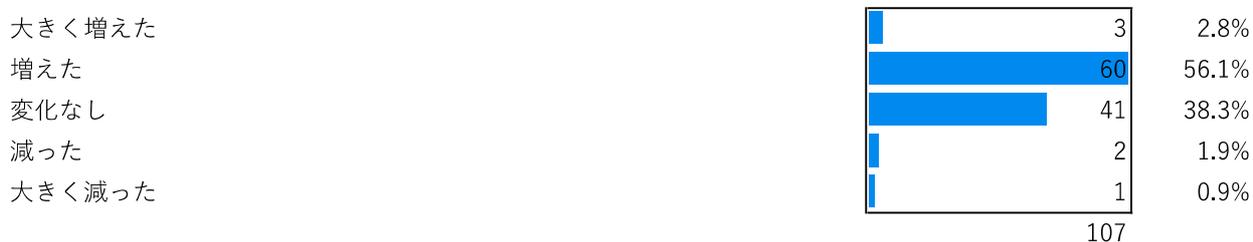
M. 外国語の運用能力



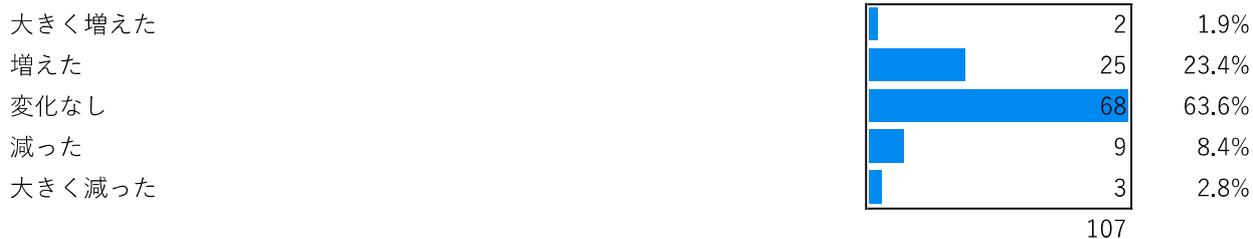
N. コミュニケーションの能力



O. プレゼンテーションの能力



P. 数理的な能力



Q. コンピュータの操作能力



R. 時間を有効に利用する能力



S. グローバルな問題の理解



T. 卒業後に就職するための準備の程度

